

社会医療法人 仁生会年報2021 第23号
2021(令和3)年度 (2021.4.1~2022.3.31)



三愛病院／老人保健施設 あうん高知

三愛病院

院長挨拶	129
概 要	130
部署責任者一覧	131
医師一覧	132
職員数一覧	132
年次報告	133
診療部	133
看護部	139
医療技術部門	144
事務部	152
在宅部門	158

老人保健施設 あうん高知

概 要	161
年次報告	161
入所	161
通所リハビリテーション デイケア・ファイト	162

三愛病院／老人保健施設 あうん高知

委員会	164
院内発表会	170
診療実績・業務実績統計	171
業績一覧	179
実習・研修生	180

中村 寿宏



令和3年度の三愛病院は、外来診療および地域包括病棟、障害者病棟、介護医療院の入院・入所の診療につとめつつ、新型コロナウイルス感染症に対応して、発熱外来、新型コロナウイルス感染症入院診療、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種を行ってまいりました。全てのグループ施設において感染対策を徹底したうえで、医療・介護業務を行うことを心掛けました。

経時的に振り返ってみると、令和3年4月1日から地域包括病床10床を稼働しました。ここでは短期（2カ月以内）で自宅へ退院できるように治療・リハビリを行います。三愛病院の従来の病棟とは運用が異なるものの、関係職員は速やかに順応してくれて順調に稼働しました。

令和3年4月26日からワクチン接種を開始。医療従事者、高齢者、基礎疾患がある方、一般の方と順次接種を行い、現在も継続しています。

一般外来、発熱外来に加えてワクチン接種の業務を外来エリアにて行うにあたって、患者さんの通路・待ち合いの動線を分けることに工夫をしました。病院入り口でのトリアージ係を配置し一般外来受診者と発熱外来受診者が接触しないように配慮し、ワクチン接種は、一般外来が終了したエリアで、極力外来患者さんと交わらず行うようにしました。

1年間（令和3年4月1日～令和4年3月31日）の発熱外来受診者のべ数は、内科1,055名（うち、抗原検査を161名、核酸増幅検査を796名で施行）、小児科491名（うち抗原検査を6名、核酸増幅検査を449名で施行）でした。また新型コロナウイルスワクチンは、1年間で7,413回の接種を行いました。また一部の医師・看護師は外部での接種にも出向しました。

令和3年6月にGHいろは丸、三愛病院においてクラスターが発生し、急遽臨時の入院受け入れ医療機関に認定され、感染患者の診療にあたりました。新型コロナウイルス感染症の流行が始まって以来、当院では感染予防対策やトリアージ、ゾーニングの方法を平素から研修しており、また発熱外来で実践していました。これらのことが叱咤のことに役立ったと思います。

令和3年9月に入院受け入れ重点医療機関に認定されることになり、本格的に病棟編成を行い、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れを始めることになりました。10月から12月にかけて感染者数は落ち着きをみせましたが、翌年になり再び増加に転じ第6波が始まりました。

そして令和4年1月、三愛病院、介護医療院において再びクラスターが発生してしまいました。これだけ厳しい感染対策をしても防げないのかと愕然としたことでした。患者さん、ご家族の皆さんにはご心配をお掛けし申し訳ありませんでした。またクラスターの収束に向けて頑張ってくれた職員の皆さんには感謝申し上げます。

令和2年春に始まったコロナ禍により、医療や介護に携わる者には過酷な負荷・ストレスがかかり続けています。なんとか終息の光がさすことを願っています。



三愛病院



老人保健施設 あうん高知



グループホームいろは丸と
デイサービスいろは

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

概要

1. 理念・基本方針

仁生会憲章（三愛病院理念）

- 1) 私達は 限りない愛情と責任をもって 常に最善をつくします
- 2) 私達は 自己研鑽にはげみ 人々から愛される病院づくりを目指します
- 3) 私達は 常に和を大切に職場の規律を守り 病院の健全な発展に努めます

三愛病院の基本方針

私たちは、仁生会憲章に基づき、安全で適正な質の高い医療および療養環境を提供します。
また、最新の保健医療動向に取り組み、健康増進・予防対策の観点から、地域ニーズに適切適時対応します。
さらに、地域の声を医療活動に反映させていきます。

患者さまの権利5カ条

三愛病院のすべての患者さまは、以下の5カ条の権利を有します。

- 1) 良質の医療を継続して受ける権利
- 2) 治療に関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 3) 十分な説明を受け、自らの治療を選ぶ権利
- 4) 意識のレベルに関わらず、尊厳を守られる権利
- 5) 個人情報保護される権利

2. 施設とその内容

①施設面積、建物面積

敷地面積：3,877.69㎡

建物面積：1,559.73㎡

②施設の内容（各階の目的、機能別）

4 F 介護医療院さんあい

2・3 F 愛1・2病棟 障害者施設等入院基本料 10対1

特殊疾患入院施設管理加算

うち10床地域包括ケア入院医療管理料1

うち38床重点医療機関確保病床

1 F 外来診療部門、医療技術部門、事務部門

3. 標榜科目

内科、小児科、耳鼻咽喉科、放射線科、形成外科、皮膚科、美容皮膚科、整形外科、
精神科、泌尿器科、循環器内科、訪問診療科、リハビリテーション科

4. 許可病床数

98床（愛1病棟・愛2病棟併せて）

部署責任者一覧

令和4年3月31日現在

院長	中村 寿宏
副院長	坂本 賢司
診療部	
医局長／小児科長	橋 詰 稔
内科科長	中 川 治
内科科長	小野寺 真智
内科科長	品 原 正 幸
耳鼻咽喉科科長	市 川 利 恵
放射線科科長	岩 井 智 郎
看護部	
看護部長	濱 名 郁 里
愛1病棟看護師長	細 川 亜里沙
愛2病棟看護師長	中 平 好 昭
介護医療院さんあい看護師長	大 石 陵 子
外来看護師長	片 岡 典 代
在宅部門	
居宅介護支援事業所「一宮」主任	和 田 真 樹
グループホームいろは丸主任	森 岡 明 美
デイサービスいろは主任	宮 内 清
高知市布師田・一宮地域包括支援センター	小 松 めぐみ

介護老人保健施設あうん高知	
施設長	細 木 秀 美
副施設長	小 松 雅 理
入所介護主任	嶋 崎 由 季
入所介護主任	竹 口 伸 也
入所介護主任	猪 崎 優 子
入所介護主任	野 町 喜 代
入所看護主任	森 中 美 緒
通所介護主任	三 浦 恵 子
医療技術部門	
薬剤室室長	小 野 正 英
放射線室主任	廣 田 任 成
臨床検査室室長	栄 田 美 智 子
リハビリテーション課課長	門 脇 貴 代
理学療法室主任	濱 田 くるみ
作業療法室主任	竹 倉 佐 和 子
言語聴覚室主任	谷 口 桃 子
栄養管理室主任	石 山 由 香
地域医療連携室看護師長	戸 田 里 子
事務部	
事務部長	植 田 宏 平
総務課長	猪 森 清 明
総務課主任	嶋 瀧 有 人
総務課主任	小 川 歩 美
医事課課長	山 本 淑 恵
医事課主任	百 田 知 佐 子
医事課主任	小 田 雅 代



三愛病院 中庭の風景

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本
部

ア
ド
レ
ス
・
高
知

福
寿
園

積
善
会

医師一覧

令和4年3月31日現在

理事長（内科）	細木 秀美
内科	
内科	中村 寿宏
	坂本 賢司
	中川 治
	小野寺 真智
	品原 正幸
	森下 美智子
	岩崎 泰正（非常勤）
	上村 千鶴子（非常勤）
	水田 順也（非常勤）
	小笠原 史也（非常勤）
向田 健太郎（非常勤）	
青山 夏希（非常勤）	
小児科	
小児科	橋 詰 稔
	森下 祐介（非常勤）
	高橋 一平（非常勤）

耳鼻咽喉科	
耳鼻咽喉科	市川 利恵
	柳原 弘男（非常勤）
放射線科	
放射線科	岩井 智郎
形成外科	
形成外科	三好 みちよ（非常勤）
皮膚科	
皮膚科	池田 光徳（非常勤）
整形外科	
整形外科	森田 穰二（非常勤）
	泉 仁（非常勤）
	南場 寛文（非常勤）
	和田 紘幸（非常勤）
精神科	
不眠外来	森田 啓史（非常勤）
泌尿器科	
泌尿器科	山本 志雄（非常勤）
循環器内科	
循環器内科	西本 美香（非常勤）
訪問診療科	
訪問診療科	担当 医

職員数一覧

令和4年3月31日現在

医師	14	臨床検査技師	4	管理栄養士	3
看護師	87	理学療法士	13	事務員	31
准看護師	17	作業療法士	6	技能員	5
介護福祉士	64	言語聴覚士	5	理学療法助手	1
看護助手	24	ソーシャルワーカー	6	保育士	2
薬剤師	4	社会福祉主事	2	計	291
診療放射線技師	2	支援相談員	1		

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

診療部



内科



院長
中村 寿宏



副院長
坂本 賢司



内科長
中川 治



内科長
品原 正幸



内科長
小野寺 真智



内科医師
森下 美智子

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 外来診療に関しては、高知大学医学部の医局からのご支援をいただいております。常勤医師とともに一般内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器・感染症内科、消化器内科の診療体制が継続できている。また細木病院のご支援により循環器外来の診療体制も継続できている。このほか肥満外来、漢方外来、内視鏡検査などを行っている。新型コロナウイルス感染症の流行や2度の新型コロナウイルスクラスター発生、特に令和4年1～2月にかけてのクラスター発生時には外来診療制限を行ったこともあり、今年度の内科系外来のべ患者数は、前年比90%で13,000人を割る結果であった。通常の医療と新型コロナウイルス感染症を念頭においた医療を両立して対応を行って

り、有熟者外来ではのべ1,055名の受診があり、うち957名で新型コロナウイルス感染症検査(抗原検査161名・拡散増幅検査796名)を実施した。また、新型コロナワクチン接種を令和3年4月より開始し、令和3年度で7,413件の接種を行った。

2. 入院診療では、4月1日から愛1病棟の10床を地域包括ケア病床へ変更した。病棟構成は愛1病棟53床(障害者病床43床、地域包括ケア病床10床)、愛2病棟45床(障害者病床43床)、介護医療院さんあい48床で運用していたが、6月19日～7月31日の間、愛1病棟の18床を新型コロナ専用病床に転換し新型コロナウイルス感染症患者の治療を行った。また、9月1日から新型コロナウイルス感染症重点医療機関への体制変更により、愛1病棟38床分を新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病棟(うち即応病床8床)、愛2病棟60床(障害者病床50床、地域包括ケア病床10床)に変更した。内科診療は6名の、新型コロナウイルス感染症診療は2名の内科医師で担当した。褥瘡治療や認知症診療などが必要な場合は、形成外科、もの忘れ外来などに診療を依頼した。体制変更や院内での新型コロナウイルスクラスター発生時の新規入院制限もあり、愛1・愛2病棟での病床稼働率は70.0%(前年90.9%)、一日当たり患者数68.8(前年89.1)と減少した。介護医療院さんあいでは病床稼働率は88.3%(前年89.1%)、一日当たり患者数42.4(前年42.8)とほぼ同程度であった。

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

2 今後の課題

1. 新型コロナウイルス感染症は現時点で収束のめどが立っておらず、その対応が引き続き課題となる。当院でも令和3年6～7月、令和4年1～2月と2度の院内クラスター発生があり、収束まで細木病院院内感染対策室にもご助力いただいたが、引き続き院内感染防止に努めつつ、有熱者外来や入院加療を要する新型コロナウイルス感染症患者の治療を行っていく。
2. 通常の医療についても、障害者病棟、地域包括ケア病棟への入院による在宅復帰支援や長期療養、介護医療院さんあいへの入所による医療ニーズのある要介護の高齢者さまの生活に対する医療と介護両面での支援など、新型コロナウイルス感染症を念頭においた医療と両立して対応していく。

3 常勤医師の氏名

中村 寿宏

(文責：科長 品原 正幸)

循環器科**1 活動内容・目標に対する達成状況**

1. 令和2年7月から、週1回午前中の外来診療を行っています。狭心症、心不全、不整脈などについて負荷心電図、ホルター心電図、心エコー検査など実施し必要に応じて専門治療のできる病院に紹介しています。
2. 前年と比較して患者数は増加しています。半日勤務で、心エコー検査を診療の合間で行うためにあまり多くの患者さんを見ることができませんが、できるだけ必要な検査はその日のうちに行うようにしています。

2 今後の課題

1. 必要度の高い患者さんをしっかり診ることができるよう、内科の先生方と連携して診療にあたりたい。
2. 心エコー検査を生理検査技師に依頼することを検討しています。

3 非常勤医師の氏名

西本 美香 (令和2年7月～)

(文責：非常勤医師 西本 美香)

訪問診療科**1 活動内容・目標に対する達成状況**

地域包括ケアを念頭に、一宮地域を中心に在宅（高齢者施設を含む）患者への訪問診療を行っている。毎月2～4名の医師が担当し診療にあたっている。新型コロナウイルス感染症の流行状況により、診察延期や電話診療への切り替え、医師配置の調整を要するなど影響がでた。令和3年度の訪問診療延べ数は135件であった。訪問先は自宅、有料老人ホーム、グループホームとなっており、年間の患者総数24名のうち7名が訪問終了、8名が新規であった。

2 今後の課題

令和3年度は入院や施設入所を理由に3名の自宅生活者が訪問終了となった。介護者である家族も高齢化

がすすみ、在宅介護や通院付き添いが難しくなっており、訪問診療の需要が高まっていると考えられる。次年度は当院の訪問診療体制を周知するとともに、特に自宅患者への訪問件数を増やし、引き続き地域に根差した適切な医療提供ができるよう努めていく。

3 常勤医師の氏名

中村 寿宏
坂本 賢司
小野寺 真智
森下 美智子

(文責：内科医師 森下 美智子)

坂本 賢司
中川 治
小野寺 真智
品原 正幸
森下 美智子

4 非常勤医師の氏名**【内科】**

細木 秀美
深田 順一（～令和3年4月8日）
上村 千鶴子
岩崎 泰正
小笠原 史也
水田 順也（～令和4年3月31日）
青山 夏希（令和3年4月1日～）
向田 健太郎（令和3年4月1日～）

小児科



医局長／小児科長
橋詰 稔

①活動内容・目標に対する達成状況

一次診療、地域診療を中心とした外来診療を継続している。

令和3年度の患者数は昨年度比10%減であった。新型コロナウイルスの流行による受診控えに加えて、全ての感染症が激減した。

小児発熱外来の患者数は491名。新型コロナウイルスPCR検査を449名に施行し、76名陽性であった。抗原検査は6名。

小児保健関連では、地域の保育園健診（一宮保育園、東山保育園、あゆみ保育園）、幼稚園健診（一宮幼稚園）小学校健診（一宮小学校）に出向いた。病後児保育も新型コロナウイルスの流行のため、一時受け入れを制

限したため激減している。高知市医師会の夜間休日時間外診療にも参加している。

②今後の課題

新型コロナウイルスの流行による患者減は、しばらくの間続くと考えられる。収束までの間は、発熱外来の新型コロナウイルス診療による収益の確保に努めてゆく。

③常勤医師の氏名

橋詰 稔

④非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師

森下 祐介

（平成31年4月1日～令和4年3月31日）

高橋 一平

（令和3年4月1日～）

（文責：医局長／小児科長 橋詰 稔）

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科長
市川 利恵

①活動内容・目標に対する達成状況

- 耳鼻咽喉科一般外来とともに月2回の補聴器外来を継続している。また、高知市医師会の休日診療に参加している。
- 新型コロナウイルス感染症の影響と考えられる外来患者の減少は続いており、令和3年度の患者数は前年度比74%、3,518人であった。患者の受診控えもあるが、オミクロン株の流行とスギ花粉症の時期が重なり、長期処方とせざるをえなくなったことも一因と思われる。新型コロナ対策として、診療器械類はできる限り個包装化することとし、使用頻度の高い器械は、セット化し日々更新するようにしている。また、診察椅子とユニットとの間に可動式の亚克力板を設置している。ファイバー検査前の抗原検査も令和2年度と同様に実施した。

②今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症の症状が変化しており、アレルギー性鼻炎や急性扁桃炎、急性咽喉頭炎などとの鑑別が難しくなっている。引き続き標準予防策を適切に実施していく。
- 補聴器外来、睡眠時無呼吸症に対するCPAP治療、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法など耳鼻咽喉科の専門性の高い治療症例の増加に努める。

③常勤医師の氏名

市川 利恵

④非常勤医師の氏名

関 博之（令和3年4月1日～7月31日）

柳原 弘男（令和3年8月1日～令和4年3月31日）

（文責：耳鼻咽喉科医師 横島 悦子）

放射線科



放射線科長
岩井 智郎

①活動内容・目標に対する達成状況

当科では、これまで同様整形外科領域や耳鼻科領域を除く単純撮影画像の読影、CT画像の読影、腹部や頸部の超音波検査、上部消化管造影検査を行っている。ウイズコロナの社会に移行しているためか、一般外来からのCT、超音波検査依頼の件数の減少が落ち着いているようである。健診部門からの依頼はいわゆるコロナ前よりは減少したままであるが、昨年とは変化がない。

②今後の課題

当科への読影依頼の件数は、時間帯によって変動が

あり、また、当職が健診室の診察業務を兼ねていることもあって読影レポートの完成が遅延することがよくあり、特に外来診察に関してご迷惑をお掛けしていることを遺憾に思う。レポート作成のスピードと質の向上に引き続き努力したい。

幸いにも当院では電子カルテのシステムが順調に稼働しており、読影業務の際のストレス軽減に役立っていることを実感している。また、フィルムレスの実現から10年以上を経過し、過去の画像との比較などの際のメリットが大きい。今後とも各システムの適正な利用に努めたい。

今後は、透視画像のフィルムレスシステムへの組み込みも期待したい。

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

(文責：放射線科長 岩井 智郎)

形成外科



形成外科医師
三好 みちよ

①活動内容・目標に対する達成状況

外来では令和3年5月末でQスイッチ付きルビレーザ治療が終了となった。4月の患者数前年比は300%を超え、レーザ治療の駆け込み需要があったと推測する。9月からは外来スタッフ調整のため外来が週3回となり、残り1日は主に病棟業務を行うこととなった。新型コロナウイルスの影響による外来受診控えもあったが、対応可能な場合は電話投薬も行っ

た。病棟処置件数は新型コロナウイルス感染が拡大した1月で前年比1/6程度に減少し、ここにも影響があらわれたと思われる。院内褥瘡に関して、今年度も目標を達成した。

②今後の課題

外来日や治療内容変更についての周知が必要である。褥瘡の持ち込み入院が増えつつあるなか、新型コロナウイルス感染対応期間中の褥瘡対応も今後の課題である。今後も各部署と連携して取り組んでいきたい。

③非常勤医師の氏名

三好 みちよ

(文責：非常勤医師 三好 みちよ)

皮膚科

①活動内容・目標に対する達成状況

令和4年4月より安井喜美が勤務を開始した。安井は、月、火、水、金の午前・午後外来診療を行っている。

池田はこれまでどおり土曜日の午前中に外来診療を行っている。池田の診療は月におよそ2～4回と不定

期であるため、令和3年度までの延べ患者数は年によりまちまちであった。

②今後の課題

令和3年度の課題として一宮皮膚科との棲み分けをあげたが、平日は一宮皮膚科へ週末は当院へという受

診のパターンができたように思う。令和4年度からは安井医師が加わったことで平日の受診者を当院へ引き戻したいと考える。

③非常勤医師の氏名

池田 光徳

(文責：非常勤医師 池田 光徳)

整形外科



整形外科医師
森田 穰二

①活動内容・目標に対する達成状況

外来診療は、毎日午前中で月、土は高知大学医学部整形外科教室よりの派遣医師が交代で、水、木、金は森田穰二が担当している。地域医療に十分貢献できているか、心配な点もある。本科もコロナの影響が大きい。

②今後の課題

入院を要する高齢者が来院された際の対応に苦心する際は、いつも「本店」のお世話になっている。

③非常勤医師の氏名

森田 穰二

高知大学医学部 派遣医師

泉 仁

南場 寛文

和田 紘幸(～令和4年3月31日)

(文責：非常勤医師 森田 穰二)

泌尿器科



泌尿器科医師
山本 志雄

①活動内容・目標に対する達成状況

細木病院グループでは細木病院で高知大学と連携し、火、木、土、の外来のうち、木曜日を担当し、三愛病院では火曜日の午後と金曜日の午前を担当しています。

専門は一般泌尿器科、腫瘍、感染、小児、結石、神経因性膀胱、過活動膀胱を含めた排尿障害です。排尿管理は薬物療法、カテーテル管理、自己導尿、排尿誘

導など患者の症状に応じて対応しています。

患者数は微減ですが、前立腺がんなど、泌尿器科がんを早期発見し、高知大学や近森病院などに紹介しています。また、細木病院でMRIが更新され、前立腺がんが生検前に診断できるようになりました。

②今後の課題

各主要機関と十分に連携し、各病院の特性を活用し、患者様に適切な対応を考えて、相談していきます。

③非常勤医師の氏名

山本 志雄

(文責：非常勤医師 山本 志雄)

精神科

①活動内容・目標に対する達成状況

高知大学精神科医局より、森田啓史が精神科外来を毎週木曜日午前に行っている。外来診療と同時に、入院患者および介護老人保健施設あうん高知入所中の精神症状を認める患者さんの診察を担当している。加えて、内科入院中に突然発症した精神症状への対応も行っている。精神症状は心理的な要因のみではなく、身体的な異常で生じることがあるため、心理検査、血

液検査や頭部画像検査などを組み合わせた診察を行いながら、患者さんが地域で安心して生活できるように、ケアマネージャーや保健師、その他の医療従事者との連携を行っている。

②今後の課題

令和元年度までは当科の医師は2名であったが、令和2年度からは1人となっている。よって、マンパ

ワーの不足が課題である。加えて、当院には精神科の病床がないため、入院を要する精神症状を有した患者さんが外来を受診した際の、迅速な対応も課題と考える。

③非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院
精神科 病院助教 森田 啓史

(文責：非常勤医師 森田 啓史)

● 健診室

①活動内容・目標に対する達成状況

令和3年度 健診件数：1,343件

1. 活動内容

①健康診断

生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、特定健康診査（特定健診）、事業主健診（企業健診）、人間ドック、大腸がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診など。

②職員健診

職員の定期健康診断、新採用者・中途採用者の健診。

2. 目標達成状況

新型コロナウイルス感染症の影響で受診者数が減少している。

令和1年度 健診件数：1,689件

令和2年度 健診件数：1,189件

②今後の課題

新型コロナウイルス感染症による影響などから、受診件数を増やすことは難しい現状が続いている。胃内視鏡検査や午後の健診再開により、徐々に件数増加につなげる。さらに長期的な対応を考えた取り組みを行っていききたい。できる限り受診者のニーズに応え、地域の病院として生活習慣病予防、疾病の早期発見に貢献していききたい。

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

(文責：健診室 岩井 智郎)

看護部

1 概要

構成部署：

看護部長室・医局秘書・
事務員（医師事務作業補助）

所属長名：濱名 郁里

構成職員：看護師 1名
事務員 5名
合計人数 6名



看護部長
濱名 郁里



2 2021(令和3)年度 目的・目標

1. 経営基盤の安定化
2. 看護部における働き方改革
3. 質の高い看護・介護職員の育成

3 目標に対する取り組み

1. 経営基盤の安定化：1年目となった地域包括ケア病床は、地域住民の緊急入院に対応し、その機能を発揮して安定した運営ができています。また、今年度は新型コロナウイルス感染症対応に迫られる1年であった。入院時のトリアージやPCR検査の実施、その他さまざまな感染対策をしていたにもかかわらず、2度の院内クラスターが発生し、入退院の一時中止など経営にも影響をおよぼした。各病棟に外来看護師が助勤に行くなど、応援体制を取りながら感染拡大防止に努め終息することができた。
2. 看護部における働き方改革：看護部職員のワークライフバランスの取り組みを継続して実施してい

る。昨年度は業者への委託やシステムの変更を行ったが、今年度は看護補助者を増員し、タスクシフトに力を入れてきた。看護師の離職率は目標の10%以内を達成できており、低い離職率を維持できるように今後も取り組みを継続していく。

3. 質の高い看護・介護職員の育成：新型コロナウイルス感染症の流行から、外部研修が少なくなっている中で、WEB研修やeラーニングを活用し、研修参加を行ってきた。特に、認知症研修や感染対策の研修などは多くの職員に積極的に参加を促し、リーダーとなる職員の育成に努めている。

4 次年度の課題

1. 経営基盤の安定化
2. 看護部における働き方改革
3. 質の高い看護・介護職員の育成

（文責：看護部長 濱名 郁里）

愛1病棟

1 概要

病棟形態：障害者施設等一般病棟
（10：1入院基本料）・コロナ病床

病床数：38床

所属長名：細川 亜里沙

構成職員：看護師 11名
准看護師 2名
合計人数 13名

2 2021(令和3)年度 目的・目標

1. 関係部署との連携を密にし、障害病棟の役割を果たす
2. 看護実践能力を高め、安全・安楽な個別性のあるケアが提供できる

3 目標に対する取り組み

1. 令和3年9月よりコロナ受け入れ協力機関として



稼働。以降、病棟稼働率・障害率ともに流動的となり、障害率においては平均77.32%、病棟稼働率においては39.62%といずれも目標達成には至らない結果となった。院内クラスター発生時にはコロナ病棟として、体制や環境調整を図りながらできる限りの患者の受け入れを行うなど協力し役割

を果たすことができた。今後は受け入れ協力機関として継続するか不透明な状況となるが、引き続き病院のニーズに合わせた病棟運営を目指す。受け入れ基準を原則に適宜医師と相談を行いながら、体制・整備の調整を図り積極的な受け入れを行う。また、障害病棟稼働についてもコロナ受け入れ状況をみながら、入院相談会で対象患者を積極的に受け入れることで障害率・稼働率の上昇に努める。

- 他職種との連携については、9月からの病棟編成により地域包括病床からコロナ受け入れ協力機関としてコロナ病棟へ転換。稼働前の合同ミーティングや入院時の搬入から入室までのシミュレーションなど、安全・スムーズな体制づくりに向け他職種とも協力を図ることができた。また、特殊な環境下でも適宜、アセスメントやカンファレンスを行いながら他職種とも情報共有を図り、個別

性に沿ったケアにつなげることができた。人材育成については、主任・リーダー看護師を中心に新たなリーダー看護師の育成に向け、指導案を作成。リーダー会などで進捗状況などの情報共有を行い、指導方法の検討や統一を図ることができた。自己研鑽は個々によって参加率に差がみられるもののオンライン研修も少しずつ浸透しはじめており、前年度よりは参加率が向上している。自己の目標時間をクリアできていないスタッフに対しては、必要な研修について個別に参加促しを行っていく。

4次年度の課題

- 自部署の役割を理解し、ニーズに合わせた病棟運営を行う
- 働きやすい職場環境の構築
- 人材育成

2021(令和3)年度【部署名：愛1病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	感染管理(COVID-19) PPE・ゾーニング・治療薬	菜名・武田
5月	重症度、医療・看護必要度の記録と評価	岡林・西森
6月	看護記録の位置づけと記載方法	諏訪・中城
7月	褥瘡・創傷処置・MDRPUについて	岡崎・松本
8月	ブルーコール対応・ハイリスク薬・救急搬送(COVID-19)	大原・西森
9月	リーダー看護師・受け持ち看護師の役割(SBAR)	藤本・中城
10月	感染管理(インフルエンザと感染性胃腸炎)	菜名・川崎
11月	ACPとエンゼルケア(COVID-19の対応含む)	諏訪・松本
12月	医療機器の取り扱い(携帯用心電図・アームス)	藤本・岡崎
1月	大規模災害時の対応	大原・川崎
2月	接遇・倫理について	武田・岡林
3月	事故対策とヒヤリハット報告	中城・西森

(文責：看護師長 細川 亜里沙)

愛2病棟

1概要

病棟形態：

障害者施設等一般病棟(10対1入院基本料)・地域包括ケア病床(13対1入院基本料)

病床数：60床

(地域包括ケア病床10床)

所属長名：中平 好昭

構成職員：看護師 30名
 准看護師 3名
 介護福祉士 4名
 看護助手 5名
 クラーク 2名
 合計人数 44名



22021(令和3)年度 目的・目標

- 施設基準の維持と病床稼働率の安定化
- 働きやすい職場風土の構築
- 看護・介護の力を発揮し、サービスの質を高める

③目標に対する取り組み

- 令和3年9月に病棟再編があり、2階の15床（内地域包括病床10床）が愛2病棟となった。病棟再編の際には、他部署や地域医療連携室と協力し、障害者病棟・地域包括病床各々の施設基準を踏まえてベッドコントロールを行うことができた。上半期は稼働率92.6%であったが、下半期は1月に新型コロナウイルス感染クラスター発生があり、稼働率80.6%まで落ち込んでしまった。年間の平均稼働率は86.6%で目標の90%以上を達成できなかった。障害率は89.9%で目標の75%以上を達成することができた。
令和4年1月12日に発生した新型コロナウイルス感染クラスターでは、入院患者19名、看護職員6名、介護職員4名、看護学生1名が陽性者となり、最終的に計30名の大規模クラスターとなった。同日中に看護部長や細木病院感染管理者の指導をいただき、病棟内のゾーニング、PPE着脱訓練、職員のチーム編成などの業務調整を行った。濃厚接触者の職員を含めると13名が出勤できなくなった。その中、他部署や他職種の応援やたくさん励ましの声をいただきながら2月中旬に収束することができた。クラスター発生の要因分析を行い、引き続き感染対策に取り組んでいる。
- 病棟再編に伴い職員の異動に加え、フロアが2階と3階に分かれていることもあり、はじめの2～3月は職員間やチーム間連携が十分発揮できなかった。チーム再編や業務調整を行いながら徐々に協力できるようになってきているが、職員によって協調性やコミュニケーション力には個人差がみられ、まだまだ目指している職員皆が働きやすい職場風土構築には課題が残っている。
- 新型コロナウイルス感染クラスター発生時は、感

染対策を優先するため、ケアの質を保つことが困難となり、患者・家族に多大な心労をかけてしまった。病院の面会制限ルールを踏まえながら、家族の対応を行った。不安の強い家族には看護部長や他職種の協力を得ながら、電話やりモート対応で不安の軽減に努めた。

病棟再編では、包括病床について部署内での勉強会を開催し、知識を高める取り組みを行った。地域医療連携室や他職種と連携し入院3日以内のカンファレンスで方向性の情報共有を行い、各職種が専門性を発揮し退院につなげることができた。障害病棟でも患者の状態に合わせて必要時は入院後1週間以内に退院支援カンファレンスを開催し、退院に向けた取り組みを行うことができた。各チームとも患者の状態に応じて定期的にケアカンファレンスを行い、最適なケアを展開することができた。

人材育成では新型コロナウイルス感染防止対策で研修が限られた中、部署内で勉強会の開催やプリセプター会や教育委員会で進捗状況、課題を情報共有し計画を立てながら育成に取り組んだ。職員の自己研鑽ではオンライン研修が主流となり、受講しやすい環境ではあったが、研修に対する意識は個人差があり、全体の参加率の向上にはつながらなかった。次年度は必要な研修参加への個別的な声掛けや勤務配慮を行い研修に参加しやすい環境をつくっていく。

④次年度の課題

- 施設基準の維持と病床稼働率の安定化
- 働きやすい職場風土の構築
- 看護・介護の力を発揮し、サービスの質を高める

2021(令和3)年度【部署名：愛2病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	重症度、医療・看護必要度各項目の定義と評価方法	中平・藤本
5月	医療安全、R2年度病棟事例のまとめ、ヒヤリハット報告書の記載方法	山本・宗石
6月	ブルーコール対応、救急搬送時の役割(看護・介護)、救急カートとハイリスク薬	松山・河野
7月	褥瘡対策、スキンケア処置、MDRPU予防	岩崎・中西
8月	医療機器の取り扱いと点検、モニター・輸液・シリンジポンプ・AED・12誘導心電図	東・松本
9月	接遇マナーの基本、医療倫理、患者・家族への関わり方	澤村・楠永
10月	感染管理、コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルスとその対応	多田・川崎
11月	認知症看護、関わり方とケア介入方法	西内
12月	ACPとエンゼルケア、マニュアル周知	弘田・吉川
1月	災害対策、アクションカード、院内・病棟内物品について	嵐・千光士
2月	身体拘束について、適応と評価方法、センサー類の選定と使用方法	門田・三宮
3月	排泄ケア、スキントラブル予防、オムツ選定と当て方	松本・村上

(文責：看護師長 中平 好昭)

介護医療院さんあい



1 概要

病棟形態：I型介護医療院

病床数：48床

所属長名：大石 陵子

構成職員：

看護師	13名
准看護師	3名
介護福祉士	12名
看護助手	2名
介護支援専門員	1名
クラーク	1名
合計人数	32名



2 2021(令和3)年度 目的・目標

- 介護医療院施設基準の維持
 - 地域施設や他部署と連携し、入所者45名以上をキープする
 - I型介護医療院の要件を念頭におきベットコントロールする
- 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
- 専門職としての能力が発揮できるように知識・技術を習得する

3 目標に対する取り組み

- 入院稼働率は上半期90.6%で、下半期稼働率は86.3%、年間平均稼働率88.5%。平均入所者数は42.4名。他部署とも連携してベットコントロールを実施しており、スムーズに入・退所のベット調整が行えるようにはしていたが、年明けの1月に新型コロナウイルス感染症の発生からクラスターとなってしまった。そのため治療前後のベット調整で、一時的に入所者数が減少してしまったことがあり、年間目標値をクリアすることができなかった。新型コロナウイルス感染症のクラスター発生については、

初発から認定感染管理看護師や部長のアドバイスも受けながら対応策を講じていたが、感染拡大してしまい、入所者や家族には迷惑をかけてしまった。コロナ感染対策を行うとともに、日ごろからの感染対策について職員一同見直しを行い、継続して感染対策が行えるように気を引き締めて業務にあたり、学びの機会にもなったと考える。

- 今年度の介護事故報告は、与薬に関する事案2件、骨折事案1件であった。骨折事案については、全介助入所者の骨折。ケア中の骨折であると考えられるが、はっきりとした受傷タイミングはわからず。全介助レベルの方のケアを検討し愛護的にケアに当たることを再周知した。薬剤に関する事故報告については、2件ともにヒューマンエラーによるもので、手順に沿った確認を実施していくよう再周知している。職員間連携では、各自がアサーティブな対応と互いに価値観を認め合うことを意識している。また、多職種が連携して働きやすい環境づくりに取り組んでいる。面会制限がかかっている期間が長く、外出制限もあり地域との交流も持つことができなかった。
- 研修参加に対する意識には個人差があるものの、感染対策などで対面研修がほぼなくなり、その代

2021(令和3)年度【部署名：介護医療院さんあい】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	受け持ち記録物について、高齢者虐待防止・身体拘束適正化について	関・宮地
5月	ブルーコール、急変時対応	戸田
6月	自立支援、レクリエーション	大山・井上
7月	接遇、倫理・プライバシー保護	藪内・藤田
8月	褥瘡・MDRPU予防、創傷処置、ポジショニング・クッション管理	芝・豊永
9月	記録当院の記録に関するルール	津野
10月	感染管理、食中毒（経路別予防策、標準予防策）	伊藤（綾）
11月	災害時対応（情報システム、トリアージ）	橋本
12月	排泄ケア（自部署での取り組みも含む）	林
1月	認知症ケア	森本
2月	看取りケア、エンゼルケア（ACPについて）	秋山
3月	医療事故防止、発生時の対応	大石

替でオンライン研修の参加は呼び掛けた。
また、医療安全管理の研修や認知症ケア実践研修などは計画をして参加できた。今後も必要な研修を提示して参加を促していく。

4次年度の課題

1. I型介護医療院施設基準の維持
2. 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
3. WLBも考えた労務環境の改善

(文責：看護師長 大石 陵子)

● 外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

1概要

所属長名：片岡 典代	
構成職員：看護師	12名
准看護師	4名
保育士(病児保育)	2名
看護助手	1名
合計人数	19名



22021(令和3)年度 目的・目標

1. 外来スタッフとして経営に参画する
 - 1) ムリ・ムダ・ムラを考慮した業務改善を行う
 - 2) 病床稼働率アップを念頭に置き、外来スタッフとして協力する
 - 3) 外来でとれる診療報酬の知識を深め収益アップに貢献する
2. 働きやすい職場環境をつくる
 - 1) 年間5日の有給休暇を取得し、公平な有給消化を目指す
 - 2) 報連相(ホウレンソウ)を徹底し、連携強化を図る
 - 3) 個々の自己実現に向けて、お互いが協力できる風土をつくる
3. 質の高い外来看護サービス・良質な保育強化に努める
 - 1) 医療・介護・保育などのサービス全体を統合的にマネジメントできるように努める
 - 2) 前年度と比較し自己研鑽アップを図る
 - 3) 在宅療養支援を視野に入れ、個々の専門分野を強化する

3目標に対する取り組み

1. コロナ禍の影響により、外来数が減少したが、訪問診療件数(前年比104%)、予防接種(前年251%、主に新型コロナワクチン)は増加した。発熱外来業務はおおむね担当者を決め従事した。また、外来患者数減少に伴い、職員は他部署へ助働業務を行うなど他部署との連携を強化した。
2. 年間5日の有給休暇を取得し、公平な有給消化を目指し、お互いが協力できる風土づくりに取り組んだ。
3. 部署での取り組みの不十分さや、コロナ禍の影響により自己研鑽につながらないケースもあり、今後の課題も明らかになった。

4次年度の課題

1. 他部署と連携をとり、安心・安全な質の高い看護を提供する
2. ワークライフバランスを考慮した、働きやすい職場環境をつくる
3. 自己研鑽に努め、良質な看護を提供する

2021(令和3)年度【部署名：外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	包括病床と医療介護院について(紙面)	戸田
5月	外来に関する診療報酬	小田
6月	開催なし	
7月	開催なし	
8月	禁煙外来	穂岐山
9月	補聴器外来	大森
10月	開催なし	
11月	開催なし	
12月	災害看護	酒井
1月	乳児検診	徳弘・和田
2月	開催なし	
3月	倫理を考える(紙面)	片岡

(文責：外来師長 片岡 典代)

医療技術部門

● 薬剤室

① 概要

所属長名：小野 正英
 構成職員：薬剤師 4名
 事務員 1名
 合計人数 5名

② 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

- ① 適正な医薬品管理と薬物療法の推進により、病院経営に貢献する
- ② 相手を思いやる・尊敬する

2. 薬剤の保管・管理の検討

令和3年度の処方箋枚数（内服・外用）は7,369枚であった。昨年に比べ424枚も減少した。これは、当院が新型コロナウイルス感染症入院患者の受け入れ医療機関に指定されたことにより、病床数が減少し、さらに入院患者さんも減少したためと考える。後発医薬品の使用率は、平成3年において78.0%であった。薬剤室の目標は後発医薬品使用体制加算2であったが、後発医薬品使用体制加算3に留まった。このことはジェネリックメーカーの医薬品において原料入手が困難となり製造が需要に追いつかな



い事態が発生したため、採用薬を先発医薬品に変更せざるを得なかったためと考える。今後、医薬品の供給体制について検討する必要があると考える。

③ 今後の課題

- 電子カルテ導入後の薬剤室業務手順書について
電子カルテ導入後の薬剤室業務手順書の改訂を行っており、現在、採用医薬品の決定方法、および購入方法のマニュアル化を行った。今後、病棟および、各部署への医薬品の供給について手順書の改訂を行う予定である。

（文責：室長 小野 正英）

● 放射線室

① 概要

所属長名：廣田 任成
 構成職員：診療放射線技師 2名
 合計人数 2名

② 活動内容・目標に対する達成状況

前年度目標であった、一般撮影件数の増加については、一昨年同様、新型コロナウイルスの影響もあり厳しい状況であった。その他の検査・撮影においても件数が減少した。一般撮影以外は大幅な減少が見られた。CT検査に関しては（他病院からの依頼件数も減ったため）24%減少、超音波検査27%減少、胃透視検査14%減少、健診19%減少、全体で11%減少した。

その他の目標については機器の更新以外は達成できたと思う（CT検査の個人被ばく管理、放射線の安全管理についての指針作成、電離健康診断の届け出、法改正に伴う業務拡大による講習会への参加（オンライン講習会）など）。



新型コロナウイルスの対応としては、コロナ病棟撮影時や発熱患者さん撮影時の、PPEの着用、撮影後の環境衛生や換気などを行った。

その他の病室撮影に関しても、撮影後の装置の清掃やIPカセットの清掃などを行ったため撮影に手間と時間がかかる状況であった。

その他として、月に1度ではあるが受け付けのトリアージにも参加した。

③今後の課題

1. 今年度も昨年同様、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、検査・撮影件数の回復を行っていきたくと考えている。また昨年度から件数が減ってきている他病院からのCT撮影について、どのように対応していくのが、CT件数回復への課題になってくる。

2. 数年前から大きな課題となっている、機器の更新（一般撮影装置、X線透視装置、ポータブル撮影装置）まで今の状況でいつまでもたせられるかが大きな課題である。

（文責：主任 廣田 任成）

● 臨床検査室

①概要

所属長名：栄田 美智子
構成職員：臨床検査技師 4名
合計人数 4名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 前年度に引き続き一般、血液、生化学、生理、外注検査共に実績件数は減少している。
免疫検査は、コロナ関連の抗原検査、拡散増幅検査が増えたため増加している。
生理検査の心電図負荷テスト、ホルター心電図は、件数が増えてきている。
コロナ関連の件数は、令和3年度1,938件であった。外来など他部署の協力をいただきながら、少人数での対応ではあったが実施してきた。コロナPCR検査、生理検査、検体検査を2人の技師で対応する場合もあったが、正確、迅速な検査の提供をすることを目指した。
しかし、検査結果の報告遅れなども発生し、業務の見直しや改善を行うことが、今後の課題となった。
2. 自己研鑽については、それぞれが幾つかのWebでの研修を受講した。
沈査、血液像などの結果の統一化を図るよう不規則的ではあるが症例検討を行った。
自動分析機のメンテナンス講習のための出張がコロナの影響で何度も延期となったため、手順書を



基にメンテナンスを行ってきた。

3. 新たな人員として、エコー検査 カテーテル（心カテ）検査経験者を迎えることができた。知識と経験を活かして検査の幅を広げるようにする。

③今後の課題

1. 循環器内科の患者さんが増えて、心電図、負荷心電図、ホルター心電図、心エコーなどいろいろな症例に遭遇する機会があると思う。今後は皆がレベルアップし、患者の状態や変化を迅速に主治医に連絡できるように努める。
2. 安全、安心な検査データを迅速に報告できるように日々の機器のメンテナンス、精度管理を怠らない。業務の見直し、改善を行う。

（文責：室長 栄田 美智子）

● 栄養管理室

①概要

所属長名：石山 由香
構成職員：管理栄養士 3名
合計人数 3名
給食業務委託：富士産業株式会社 14名

②活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

- ・入院患者および入所者に対して病状に合わせたお食事の提供
- ・栄養マネジメント強化加算の実施



- ・栄養スクリーニング加算の実施
- ・栄養アセスメント加算の実施

- ・外来患者の栄養指導の実施
- ・入院患者の栄養指導の実施
- ・病棟カンファレンスの参加
- ・担当者会議の参加
- ・判定会の参加
- ・嚥下検査食（VE検査）の提供
- ・各委員会の参加
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の実施

目標に対する達成状況

[目標]

- ①外来栄養指導を継続的に行う。
- ②入院患者の適切な栄養管理を行う。
- ③栄養マネジメント強化加算を実施する。
- ④栄養アセスメント加算を実施する。
- ⑤口腔・栄養スクリーニング加算を実施する。

[達成度]

- ①糖尿病などの病気で食事に制限がある患者さまに対して一人ひとりの状況に合わせたアドバイスを行っている。また、現状の把握から経過観察まで繰り返し行い、患者さまの生活スタイルに合った内容の情報を提案している。
- ②必要栄養量の算出や患者さまの病状に応じた食事内容や形態の検討・調整を行い必要な栄養量を摂取できるように努めた。また、入院中の食事摂取量や栄養状態、病状の変化などに応じて

その都度、多職種で食事内容を検討し変更を行っている。

- ③管理栄養士により栄養マネジメントや低栄養状態の改善に向けた取り組みを実践している。また、多職種共同で課題を解決し入所者の栄養状態の改善、維持に努めた。
- ④デイケアファイトやデイサービスいろはの利用者に対して栄養アセスメントを行い栄養改善が必要な利用者を的確に把握して、適切なサービスにつなげることができた。
- ⑤グループホームいろは丸の入所者に対して口腔・栄養スクリーニングを行い栄養状態について情報提供を行った。

③今後の課題

富士産業株式会社スタッフと共に、個々の患者さまの病状に合わせた対応を行い衛生的でより安心な食事の提供に努める。また、病院食は治療・栄養教育・健康維持を目的としているが、それだけでなく、入院生活の中で患者さまの楽しみの一つである「食事」をより満足していただくことも重要と考えている。今後も多職種と連携をとりながら患者さまにとってより良い食事の提供に努める。

（文責：主任 石山 由香）

リハビリテーション課

①概要

所属長名：門脇 貴代	
構成職員：理学療法士	8名
作業療法士	4名
言語聴覚士	3名
リハビリ助手	1名
合計人数	16名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供
 - ・コロナ禍ではあるが、民間介護予防事業「紡」の再開が可能となった。
 - ・「紡」での新しい取り組みとして、実施アンケートならびに体力測定を開始した。
2. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供
 - ・適切な感染対策のもと、入院初日からのスピーディーな対応を行った。
 - ・専門職として包括ケア病床の実績に積極的に努力した。
 - ・コロナクラスターにより、効率的な介入に困難があった。

3. 採算性への努力

- ・人員数前年度比99.7%、実働日数前年度比101.7%、延べ対象患者数80%の状況において、前年度比73%の算定額であった。
- ・実質2カ月程度の介入中止期間があり、それ以外でも訓練対象者の激減状態であった。
- ・目標実施単位数（18単位/日）の達成率はPT 91.45%、OT 97%、ST 92.1%で目標には届かなかった。

大小2回のクラスターの中、訓練実施が困難な期間が続いた。その期間には感染病室の清掃や感染患者の移動、感染ゴミの廃棄や使い捨て食器の作成などを積極的に実施し、病棟の運営継続に努力した。

また感染が判明した中には、訓練で介入していた患者もいたが、適切な感染対策を行っていたため濃厚接触者と判断されることなく業務を継続することができた。

③今後の課題

1. 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供
2. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供
3. 採算性への努力
4. 適切で確実な感染対策

地域での介護予防活動も軌道に乗り、固定の参加者も多くなった。今後は予防対策としての効果度の判断

や満足度など、双方向のやりとりの中で進化していきたいと考える。

コロナ禍で外部での研修会などへの参加が困難な状況が続いているため、部署内でのケーススタディを深め、自身の弱点への気付きと学習への足掛かりとし、実用的なスキルアップに努める。

コロナ病床の実施による対象患者数の減少状態は継続していることと、各病棟の感染対策による訓練時間への影響がみられる中、可能な範囲で介入の工夫を継続し効果・効率を上げていく。またこれまで以上に感染対策を確実に実施していく。

(文責：課長 門脇 貴代)

□ リハビリテーション課 理学療法室

①概要

所属長名：門脇 貴代
構成職員：理学療法士 8名
合計人数 8名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供
民間介護予防事業「紡」での健康教室の開催は、3年目を迎え、月2回の開催が定着化している。リハビリテーション関連だけでなく、時代に即した内容にも積極的に取り組み、参加して下さる方の要望や傾向を加味した内容を行うなど、マンネリ化とならないような工夫を行っている。当院のクラスターにより1カ月半ほど休止期間があったが、再開後も多くの方が参加して下さり、1年で20回開催できた。
2. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供
地域包括ケア病床が開始となり、速やかな介入、取りこぼしなく実施するための書類作成、担当患者の振り分けなど、課長と共にその都度検討を行った。
また新患に対しては、各々がPPEの確実な装着方法を徹底し、適切な感染対策を行うことで、早期の介入、必要な訓練の提供ができた。
しかし1月の当院のクラスター発生に伴い、約1カ月間、外来・入院共にリハビリテーションの提供が止まってしまい、患者の廃用の進行も見られた。

3. 採算性への努力

コロナの影響が大きく、患者の減少、介入頻度の低下が著明となり、目標実施単位数には届かない状況が続いた。目標単位数の調整や、他スタッフのフォローなど対策を検討するも、解決には至らなかった。

③今後の課題

今年度も引き続き、民間介護予防事業「紡」の参加を続けていく。新しいジャンルの取り組みだけでなく、テーマ別のシリーズ化や、事業所からの要望によるアンコールテーマなども積極的に実施し、リピート利用の方にも満足していただける内容にしていきたい。

今後も引き続き、コロナ感染の影響により、対象患者の減少や介入頻度の低下が懸念される。

感染対策を十分に取しながら、必要なリハビリの提供を行っていくよう、病院の方針にも細かく対応していきたい。

(文責：主任 濱田 くるみ)

□ リハビリテーション課 作業療法室

1 概要

所属長名：門脇 貴代
構成職員：作業療法士 4名
合計人数 4名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供
民間介護予防事業「紡」では、リハビリ課からの講師派遣が定着し、定期的に参加される方も増えてきている。
OTは「認知症の理解を深めよう」「代謝を上げて丈夫な身体づくり」「干支のトラの小物を作ってみよう」の3つのテーマで講座を担当した。今後もOTとしての特性を活かしながら、地域のニーズに合ったテーマを考えていきたい。

2. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供
アフターコロナでの入院患者や、包括ケア病床の入院患者への自宅や施設への退院支援に際し、スピーディーで確かな介入が必要であった。感染対策を行いながらの関わりとなり、家屋訪問や家族指導、施設職員との現場での情報共有なども制限が多く、苦労が多かった。

3. 採算性への努力
コロナクラスターの発生やコロナ病床の始動、入院患者数の減少により、目標単位数の算定が難し

かった。厳しい現状ではあるが、限られた患者数に対し、PT、OT、STがより効率的に介入し少しでも採算を上げられるよう、さらに細かな介入方法の工夫や頻度の検討が必要である。

3 今後の課題

民間介護予防事業「紡」では、リピーターの方も増えてきており、講義の内容についての要望も聞かれるようになっている。今後はさらにニーズに則した内容が提供できるよう、努力していく。

入院患者数の減少によるリハビリ対象患者の不足や、感染対策に伴う介入効率の低下は今後もしばらく続くと考えられる。限られた入院患者数の中で、効率的に実施できるよう、介入方法の見直しや工夫を行っていく。また、効果的な介入ができるよう、部署内の症例検討会やOT内での勉強会を活用していく。

(文責：主任 竹倉 佐和子)

□ リハビリテーション課 言語聴覚療法室

1 概要

所属長名：門脇 貴代
構成職員：言語聴覚士 4名
合計人数 4名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供
民間介護予防事業「紡」において、口腔・嚥下機能に関する研修を開催した。毎回一定数の参加者が見られており、昨今の口腔・嚥下機能に対する関心の高まりが感じられた。また、課題であった言語聴覚士(以下：ST)の知名度向上にもつながった。

2. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供
・地域包括ケア病床ではST対象の患者は少なかつ

たが、摂食機能療法の算定が可能であることから、必要な患者に対しては積極的に介入を行った。

・障害者病棟では、早期取得期間の患者に対して積極的な介入を図った。医師・看護師とともに摂食機

能療法に対するニーズは高く、介入数の増加につながった。また、食事介助方法や姿勢など個別に対応し、統一したケアが行えるよう写真の貼付を行った。

- ・介護医療院においても、摂食機能療法に対するニーズが高かった。特に、経口摂取の可否についての見極めが必要となる場面が多く、多職種とコミュニケーションを取りながら評価を行った。
3. 採算性への努力
コロナクラスターにより実質介入不可能な時期があったため、前年度と比較すると収益減となった。また、対象患者数の減少に伴い、クラスター終息後も目標単実施位数（18単位／1日）を達成できないことが多かった。

③今後の課題

今年度もコロナ禍での業務となり、昨年度に引き続き感染症対策に留意しながらの実施となった。民間介護予防事業「紡」は、リハビリ課共通の取り組みとしてSTも口腔、嚥下機能に対する研修を実施し、毎回一定数の参加が得られるようになっている。STの知名度向上や、地域の口腔、嚥下機能に対する関心の向上、疾患予防に微力ながら貢献することができた。今後も、より身近な内容を模索しながら継続していきたい。採算性の向上は、コロナ禍ということもあり目標達成が難しい課題ではあるが、今後は対象患者の掘り下げや介入頻度の工夫など、業務の見直しを行うことでクリアしていきたいと考えている。

（文責：言語聴覚療法室主任 谷口 桃子）

□ リハビリテーション課 訪問リハビリテーション三愛

①概要

所属長名：門脇 貴代
構成職員：理学療法士（PT） 2名
合計人数 2名



②活動内容・目標に対する達成状況

①コロナ禍における感染対策と事業の継続

三愛病院でクラスターが発生した状況の中、利用者側からの拒否はなく、職員は適切で確実な感染対策を徹底した上で業務を継続できた。これにより、利用者の健康と在宅生活を維持しつつ採算性を確保することができた。

②スタッフ、他職種との連携

リハビリテーション課内や通所リハビリテーション「ファイト」との情報共有と連携の実施などを行った。課内での情報共有では、退院見込みの患者など新規利用者の紹介や情報収集が得られ、短期集中リハビリテーション加算を取得することができた。またケース検討会を実施し、課題や情報の共有を図り、より良いサービスの提供や目標達成に取り組んだ。「ファイト」との間では、実生活の様子や利用者の動作達成状況の共有できた。

③広報活動の実施

地域介護予防の一環として運動教室や民間介護予防事業「マルナカ紡」へ参加し、地域住民の健康増進に貢献するとともに当事業所の広報活動を継続している。また、各事業所に対し、チラシの配布を行い広報活動とした。

③今後の課題

1. 利用者獲得
 2. 利用者のニーズに応じた職員の訪問
 3. 科学的介護情報システム「LIFE」の活用
 4. 感染対策の継続
1. コロナ禍による母体病院からの利用者獲得の困難性は継続している。加えて、現利用者の入院や通所系サービスへの移行により全体数は減少傾向にある。院内や同グループ内施設との連携はもとより、再開し始めた居宅系の会議などへの参加を行い情報収集や広報活動に努める。
 2. 現在訪問リハビリ担当はPTだけであり、個々の利用者の課題解決や目標達成のために、OTやST職員のサービス提供など、利用者ニーズを実現できる方法を模索していく。
 3. これまでシステム導入の困難性から実施できていなかった「LIFE」の活用に着手する方向で準備を進めており、来年度からスタートの予定である。今後も訪問リハビリテーション事業所として専門性の高いサービスで在宅生活を支えていきたい。

（文責：理学療法士 高橋 良昌）

③今後の課題

1. 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大いに受け、通常のベッドコントロールが困難であり、稼働率が伸び悩んだ。安定したベッドコントロールの運用のためには、ある程度長期療養の患者の確保が必要であり、介護医療院、障害者病棟ともに要件に見合う患者の獲得に向け、居宅や包括支援センター、近隣の特養などの施設、医療機関などと連携していきたい。

また、退院後の継続した関わりとして、糖尿病患者については外来師長と自宅訪問を行い、適宜在宅のCM・当院外来スタッフと情報共有を行った。今後は糖尿病患者に限らず、退院後も切れ目なく支援することにより、在宅での患者の状態把握、場合によっては早めの入院につなげていきたい。

2. 地域医療連携室は1年半を経過し、業務内容も確立され院内各部署との連携もスムーズに図れるようになった。

まず、カンファレンス開催のマニュアルを見直し院内各部署に浸透するよう病棟師長と共同し、結果、抜け目なくカンファレンスの開催ができた。特に、緊急で入院してきた患者であっても必ずカンファレンスを多職種で行い、患者を総合的に把握し、適切な方向へ導けるよう目標・支援内容を共有することにより、退院支援を強化してきた。

引き続き関係部署と連携を図りながら、地域包括ケアシステムの一機関として院外との連携も深め、連携業務を全うしていく。

(文責：師長 戸田 里子・主任 澤田 恵里)

事務部



事務部長
植田 宏平

①概要

所属長名：部長 植田 宏平
構成職員：1名

②活動内容・目標に対する達成状況

『活動内容』

事務部は、総務課、医事課の2部門で構成されており、病院を円滑に運営するための企画、提案および行政の対応など行っています。また危機管理部門として新型コロナウイルス感染症対策などの有事には情報収集や行政との調整窓口など病院運営に必要なあらゆる庶務を行います。

『令和3年度三愛病院事務部の目標』

・病院運営への参画意識を強く持ち、実行できる、達成できる事務部門を目指す。
また新型コロナウイルス感染症の対応を柔軟かつ的確に行う。

1. 事務職員各自が責任感をもって、それぞれの担当業務を迅速かつ正確に行う。
2. 事務職員各自が、それぞれの専門性を高め、知識、熟練の向上のため研鑽に励む。
3. 事務部の次世代リーダーの育成と、事務職員全体のボトムアップを目指す。
4. 仁生会全体の方向性を把握し、法人内において積極的に協働する。
5. 三愛病院における新型コロナウイルス感染症対策に積極的に協働する。

達成状況

1. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に柔軟で迅速な対応を行い、検査協力医療機関、ワクチン接種医療機関および新型コロナウイルス感染症患者受け入れの重点医療機関指定に関する補助申請や、病棟再編成および関連の届け出事務を的確に行った。

2. 仁生会全体の方向性の把握に努め、協働を行った。また新型コロナウイルス感染症に対応し社会医療法人としての公的責務も果たすことができた。

令和3年度の目標に沿った取り組みの成果は以下の通りです。

1. 新型コロナウイルス感染症対策
コロナウイルス感染症 検査協力医療機関、ワクチン接種医療機関および新型コロナウイルス感染症患者受け入れの重点医療機関に係る補助申請・事務処理を迅速に行い三愛病院における感染対策体制の構築に寄与することができた。また小児科専用発熱外来の創設は第6波以降の小児感染者のPCR検査に貢献することができた。
2. 事務部の次世代リーダーの育成として長期空席であった総務課長を配置し、新型コロナ対応や補助申請において中心的な役割をはたした。事務職員全体のボトムアップに関しては総務課の業務整理を行い事務職員各自が、それぞれの専門性を高め、知識、熟練の向上のため研鑽に努め事務処理能力が大きく向上した。また医事課においても個々のスキルアップが順調に行えた結果、残業時間が飛躍的に減少した。

③今後の課題

1. 次世代医師の確保
診療部門における次世代医師の確保と育成および働き方改革の推進をすすめ安定した病院運営を目指す。
2. 組織力強化
事務部門全体の業務に対する意識向上に努める。またそれぞれが担当する業務の専門性を高め、能力の向上と事務部門の組織力の強化を目指す。また専門外の事案にも柔軟に対応できるよう幅広い知識の習得をはかる。
3. 新型コロナウイルス感染症対策
新型コロナウイルス感染症に対して社会医療法人としての公的役割（重点医療機関、検査協力医療機関、ワクチン接種医療機関）を継続しつつ、アフターコロナ・ウィズコロナの病院運営の在り方を模索する。

（文責：事務部長 植田 宏平）

● 総務課

1 概要

所属長名：	課長	猪森 清明
構成職員：	主任	2名
	事務員	3名
	施設係	3名
	合計人数	9名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院の目標と取り組みの達成に向けて積極的に関わる
 - 1) ホームページのリニューアル
 - 2) 新型コロナウイルス対応への積極的参加
2. 質の向上に取り組む
 - 1) 各種マニュアルの作成・見直しを行う
電子カルテトラブル時のフローチャートの作成、施設系のトラブル時のマニュアル
 - 2) 安全運転講習の開催
前年度、事故件数が増加したため本年度講習を行う。
運転前後点検など、安全運転の徹底。

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、ホームページはリニューアルまでは至らなかった。またコロナ補助金の申請やクラスター対応、コロナ病床の稼働準備、患者さんの入退院、検温トリアージなど積極的に関わることができた。

電子カルテのトラブル時マニュアルをフローチャートで作成するにあたり、分岐が膨大になったため、項目別マニュアルに切り替えて作成中である。

施設系のトラブル時のマニュアルについては、随時作成中ではあるがBCPで作成しているものを、さらにわかりやすく工夫する必要がある。

してのコロナ病床の立ち上げ準備やクラスター対応などコロナ関連業務が主であった。今後もウイズコロナに順応した病院運営を理解し、状況の変化にアンテナをはり、積極的に関わっていききたい。

また総務課は総務、人事、労務、経理、用度、IT、施設と多岐にわたっており、さまざまなスキルと知識が求められる。そのため個人のスキルアップも重要なポイントである。

給与業務や社会保険関連、各種届出など業務の役割分担の見直しを行い、各実務の問題点洗い出しや書類整備を行うことによって、各人が問題意識をもって業務を進め、考える力を身につけることに力を入れていく。その他にも進捗状況の共有や業務に対するスケジュール管理の徹底も行っていきたい。

また順次施行される法改正についても、ポイントを理解し、内容に応じて諸制度を整備しわかりやすく周知していく。

介護職員などに対する処遇改善加算などについても、算定要件を理解することや、計画書作成、配布ルールに基づいた支給、実績報告書といった事務作業については非常に煩雑であり、事務負担が大きいこともあるが、少しでも集計作業などの効率化に努めたい。

3 今後の課題

令和3年度は、新型コロナウイルス重点医療機関と

(文責：総務課長 猪森 清明)

● 医事課



①概要

所属長名：課長 山本 淑恵

構成職員：

課長・診療情報管理士・施設基準管理士	1名
主任・診療情報管理室 兼務	1名
主任・外来事務	1名
入院事務・診療情報管理室 兼務	1名
入院・外来事務	8名
	(うち1名パート)
介護事務	3名
合計人数	15名

②活動内容・目標に対する達成状況**(1) 診療報酬算定の精度向上**

新型コロナの影響で、特例的な算定要件の変更が増加した。次々と発出される通達への対応力も向上し、医療事務としての専門性を発揮することができた。レセプトの査定も年間を通して低い査定率を維持しており、自分たちの算定能力にも自信を持てる結果が得られたことは、部署全体でのモチベーションアップにつながった。今後も継続していきたい。

(2) 業務体制の強化と患者サービスの安定化

今年度は、トリアージの実施、新型コロナワクチン接種の対応など通常業務と並行したローテーションを組み、迅速かつ柔軟に対応することができた。また、一般診療との混乱防止や、感染対策を行い、感染に対する不安を取り除く患者さまの立場に立っ

た接遇を心掛けた。

また、職員についても、厳しい行動制限の中で、心身のリフレッシュやストレス緩和、有給休暇を子育て世代だけでなく全員が適宜取得できる勤務体制に注力し、部署全体の環境整備や健康管理につとめた。結果的に業務効率も上がり、残業時間の削減にもつながった。

③今後の課題

令和3年度は自分たちが、医療事務という専門職であることを自覚し、業務に対する姿勢や責任感を持って行動するということを、より学ぶことができた1年だった。

今後の課題としては、診療報酬改定に伴うタイムリーな情報収集、算定漏れ防止・返戻査定率削減の継続など、病院収益アップにつながる医事業務の向上に努めていく。また、学会や各種勉強会への積極的参加を促し、医療についての理解度・習熟度を深めることで個々のレベルアップを目指す。

また、現状として1人担当となっている業務について、緊急時でも速やかな対応が可能な体制維持を目指し、複数担当制への変更および強化を図っていきたい。併せて有給休暇を適宜取得できる勤務体制を定着化するとともに、職員自身の健康を確保し、多様化している業務にも安定的に対応できる体制をしっかりとつくっていく。

(文責：医事課長 山本 淑恵)

診療情報管理室**①概要**

所属長名：山本 淑恵

構成職員：

医事課長・診療情報管理士・施設基準管理士 兼務	1名
入院事務・診療情報管理室 兼務	2名
合計人数	3名

②活動内容・目標に対する達成状況**診療情報管理室の活性化と専門性の発揮**

長年蓄積され肥厚化した紙カルテが大量に保管されており、担当者は大変な作業となったが、電子カルテ導入後初めて、保管している紙の診療記録などの再確認および整理を実施することができ、管理すべき記録の、全体把握につながった。

今年度は、新型コロナ感染症にかかるさまざまなデータなど、収集すべきデータも増加したため、診療情報管理室に専任者を置く体制に転換したことで、必要な情報を正確かつ迅速に蓄積し、タイムリーに院内活用できるようになった。



厚生労働省へのデータ提出についても作業を分担し、適切かつ効率的に実施できた。

また、診療報酬改定に備え、施設基準管理士が主導となって新規算定などの提案や検討を積極的に行うことができた。

③今後の課題

1. 診療情報管理室の専任者を配置したことで、保管・廃棄・貸出管理などの実務の充実化を図る
2. がん登録・疾病分類コーディングなど、診療情報

データの蓄積と分析に努め、厚生労働省への提出
データ精度を上げる

3. 電子カルテ移行後初の適時調査などに備え、柔軟に対応できる管理体制の構築を目指す
4. 来年度は、高知県で開催予定の日本診療情報管理

学会へ実行委員としての参加も決定したため、診療情報管理士としての経験値や能力向上に努めていきたい。

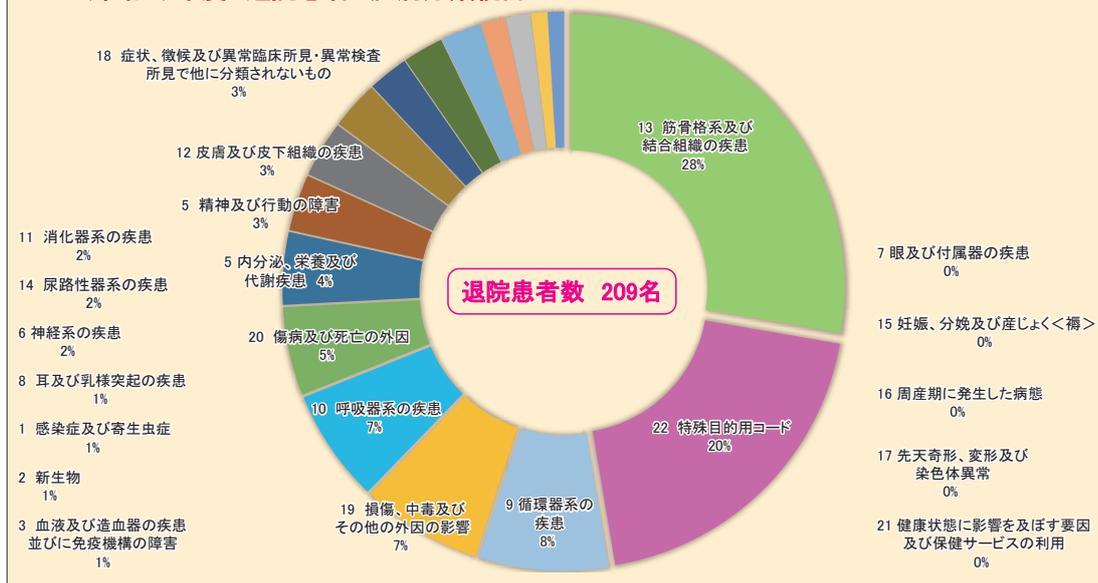
2021(令和3)年度 退院患者 疾病分類統計

ICD10大分類	件数
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	58
22 特殊目的用コード	41
9 循環器系の疾患	16
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	15
10 呼吸器系の疾患	14
20 傷病及び死亡の外因	11
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	9
5 精神及び行動の障害	7
12 皮膚及び皮下組織の疾患	7
18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	6
11 消化器系の疾患	5
14 尿路性器系の疾患	5
6 神経系の疾患	5
8 耳及び乳様突起の疾患	3
1 感染症及び寄生虫症	3
2 新生物	2
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2
7 眼及び付属器の疾患	0
15 妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0
16 周産期に発生した病態	0
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
	209

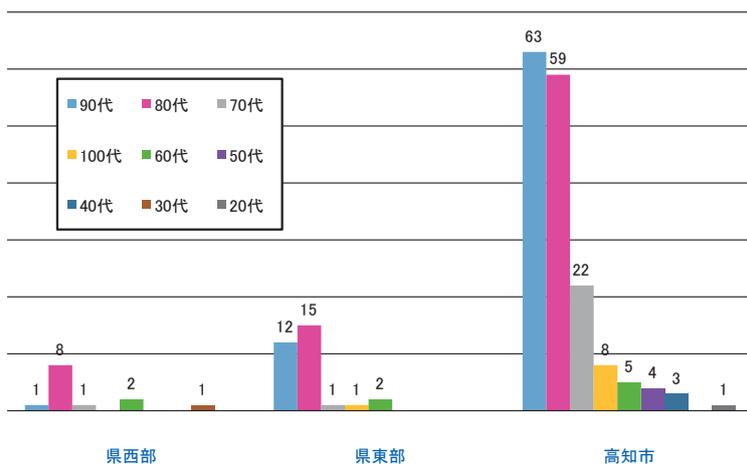
2021(令和3)年度 退院サマリー作成率

	退院数	14日以内作成	14日超作成	1カ月内作成
4月	17	100%	0%	100%
5月	16	100%	0%	100%
6月	18	100%	0%	100%
7月	9	100%	0%	100%
8月	18	100%	0%	100%
9月	25	100%	0%	100%
10月	14	100%	0%	100%
11月	7	100%	0%	100%
12月	21	100%	0%	100%
1月	22	100%	0%	100%
2月	24	100%	0%	100%
3月	18	100%	0%	100%
平均	209	100%	0%	100%

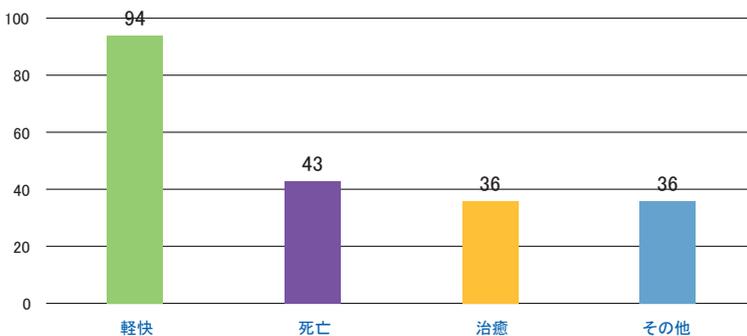
2021(令和3)年度 退院患者 疾病分類統計



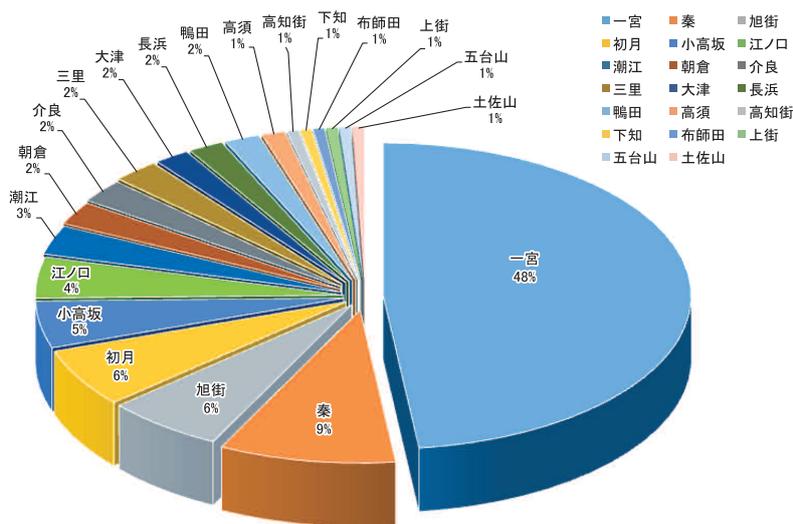
地域別年代



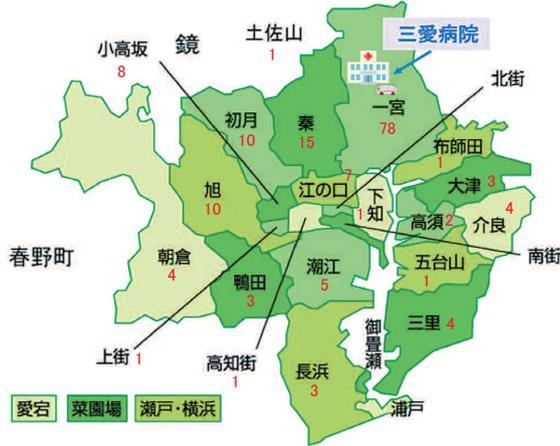
転帰



2020(令和2)年度 三愛病院 高知市内退院患者 診療圏別割合



2021(令和3)年度 三愛病院 高知市退院患者 診療圏(大街区分別)



高知市	令和3年度
一宮	78
秦	15
旭街	10
初月	10
小高坂	8
江ノ口	7
潮江	5
朝倉	4
介良	4
三里	4
大津	3
長浜	3
鶴田	3
高須	2
高知街	1
下知	1
布師田	1
上街	1
五台山	1
土佐山	1
北街	0
南街	0
春野町	0
鏡	0
浦戸	0
御畳瀬	0
合計	162

細木病院

三愛病院
あうん高知

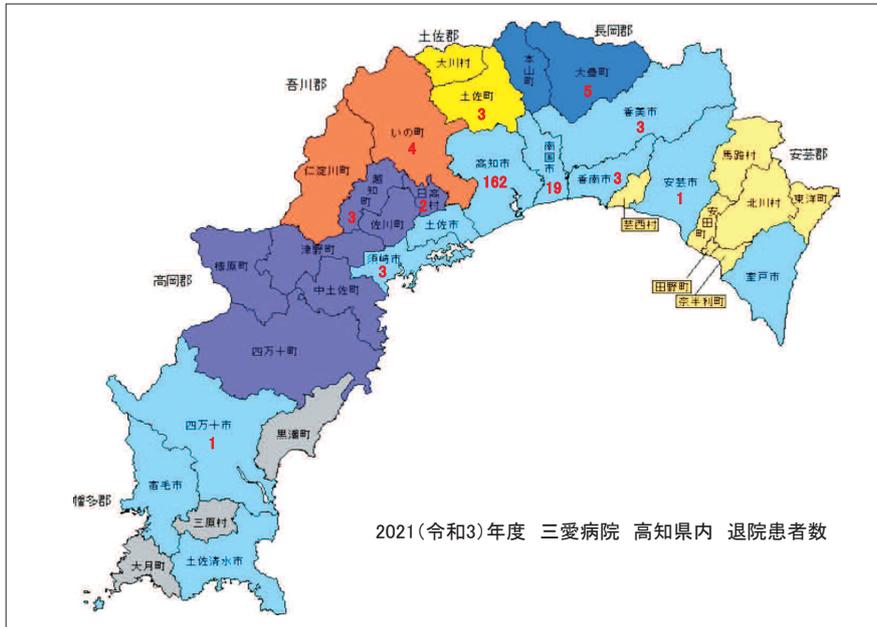
日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会



2021(令和3)年度 三愛病院 高知県内 退院患者数

市町村別	令和3年度
高知市	162
南国市	19
大豊町	5
いの町	4
越知町	3
香南市	3
須崎市	3
土佐町	3
香美市	3
日高村	2
安芸市	1
四万十市	1
合計	209

(文責：医事課・診療情報管理室課長 山本 淑恵)

在宅部門

居宅介護支援事業所「一宮」

1 概要

所属長名：和田 真樹	
構成職員：主任介護支援専門員	1名
介護支援専門員	3名
合計人数	4名



2 活動内容・目標に対する達成状況

要介護認定を受けた利用者が住み慣れたご自宅での生活が継続できるよう、多職種他機関と協働している。質の高い事業所を目指し利用者主体の支援になっているかなど、検討会を通じて振り返ることができた。

- 事業所加算Ⅱを維持できる。
週1回以上の定例会、月1回以上の事例検討会を継続している。北部ブロック全体での事例検討会は実施しているが、他法人と個別の事例検討会の開催はコロナ禍であることから開催できていない。
- 地域に根差した居宅介護支援事業所として、インフォーマルを活用した支援を行う。
新型コロナウイルス感染症拡大により、地域の催しは中止となることが多かった。感染状況が落ち着いた時期に開催された認知症カフェ、地域ケア会議、一宮防災婦人部に参加できた。
- ケアマネジメントの質の向上を図るために自己

研鑽を続ける。

定例会のなかで個人目標に関連した事前学習、講義を全員が行い、自身の苦手意識の克服にもつながった。

3 今後の課題

高知市介護支援専門員キャリアラダーモデルに沿った研修計画の立案・実施・評価を半期ごとに行う。アセスメント力を向上させることによりケアマネジメントの質の向上につなげ、事業所加算Ⅱを維持する。

全ケースのケアプランにインフォーマルサービスを組み込む視点を養い、地域に根差した居宅介護支援事業所としての存在意義を高めていきたい。

(文責：主任 和田 真樹)

デイサービスいろは

1 概要

所属長名：宮内 清	
構成職員：	
看護師・機能訓練指導員兼務	1名
介護福祉士・生活相談員兼務	4名
介護福祉士	2名
看護助手	3名
生活相談員	1名
合計人数	11名



2 活動内容・目標に対する達成状況

- 通所介護に期待される役割発揮のために、チーム力を向上させる。

新型コロナウイルスの影響もあり、年度の後半は新規相談数の減少や予防のため休む方もあり、体

調を崩され入院による利用者の終了もあった。前年から引き続き、感染予防のため、消毒や換気や

マスクの着用の徹底と黙食などを実施し、利用者の目にも見える形で行うことで安心していただけました。また、利用者の生活状況に配慮した対応を行うことで新規利用相談からスムーズに受け入れができ、新規利用だけでなく、既存利用者の利用回数の増加にもつながり、前述の理由による減少があったものの、年明けまでは利用数のある程度水準で維持することができた（年間利用率 77.8% 平均利用数 23.3名/日）。

2. 地域に根差した事業所運営に努め、地域の相談窓口となる。

新型コロナウイルス感染予防のため、地域行事はほとんどが中止となり、「サロン・ド・いろは」も休止となったままで、地域事業としては活動できていないが、包括支援センターや地域のふれあいセンター、地域内の各種団体とのつながりは継続している。

3. 自己研鑽力を高め、自身の資格に恥じない継続学習を行う。

新型コロナウイルス感染予防のため研修会はリモートでの開催が増えており、自宅や部署内から参加できる場合もあるが、個々人が参加できる環境が乏しい場合もあり、資格取得や自己研鑽につながる活動を十分に行うことができていなかった。

4. 新入職員が定着できる環境づくり。

中途採用者などに対するOJTが実施され、新入職員および指導担当する職員を全職員で支援しているが指導職員の固定ができておらず、それぞれの業務に対する理解度に相違があり、統一した指導をするには至っていない。

③今後の課題

1. 新型コロナウイルス感染予防のため、利用者間での接触や交流、役割を持てるような活動、季節行事などが制限されている状態にあるが、ウィズコロナを見据えて、利用者が通所介護の中で役割を持ち、自立して在宅生活を継続できる活動を再構築する。

2. 各職種それぞれのマニュアルの整備と合わせ、事業所内で技術、業務の基礎の振り返りを行い、技術の再習得とマニュアルの周知を行う。

3. デイサービスいろはの特色である、軽介助者が手芸などの作品に取り組み、達成感を得られることで「続けて来たい」と思える魅力的なサービスを提供し、中重度介護を中心に回りがちな近隣のデイサービスなどと一線を画する、「モノづくりデイ」を確立し、柔軟な対応ができることを他事業所などに周知していく。

（文責：管理者 宮内 清）

グループホームいろは丸

①概要

所属長名：管理者・主任
森岡 明美

構成職員：

管理者・介護支援専門員	1名
計画作成者・介護福祉士	1名
介護福祉士	10名
看護助手	5名
合計人数	17名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. グループホームの特性を生かした生活環境を提供する

今年度は、新型コロナウイルス感染対策の一環として、自立度の高い利用者については自室での生活を優先して促し、共同生活の場としての特性を生かすことは難しかった。面会・外出なども例外を除いては自粛が緩和されることはなく、本人やご家族にも焦りすら見え始めている。

2. コミュニティの一員として、地域とのつながりを

大切にする

運営推進会議について、新型コロナウイルス感染予防のため開催を中止し、紙面での報告となることが多かった。一宮小学校での行事についても縮小や中止が相次ぎ、参加・交流が困難な状況であった。

3. 良質のケアが提供できるよう自己研鑽に励む
さまざまな研修が中止となる中で、リモート開催の研修が増え始め、受講できる機会が徐々に増えてきている。また、実務者研修や介護福祉士・介

護支援専門員の資格取得など職員個人個人が自らの意思で自己研鑽に励み、ステップアップできている。

③今後の課題

令和3年度はいろは丸よりクラスターが発生し、利用者さん本人・ご家族にも大変ご心配をおかけしてし

まいました。それ以降、感染対策については敏感に対応してきましたが、今後はウイズコロナを見据えて感染予防対策も十分に配慮しつつ、閉じこもらないグループホームらしい共同生活の場として質の高い生活支援を提供していきます。

(文責：管理者・主任 森岡 明美)

高知市布師田・一宮地域包括支援センター



①概要

所属長名：管理者 小松 めぐみ

構成職員：

看護師・介護支援専門員	2名
社会福祉士・主任介護支援専門員	1名
主任介護支援専門員	1名
合計人数	4名



②活動内容・目標に対する達成状況

目標

高齢者福祉の地域における拠点となることを目指す

1. 自立を目指すケアマネジメントの実施
2. 地域ケア会議の実施
3. 認知症の初期段階からの支援
4. 高齢者の権利擁護と虐待防止
5. 介護予防の推進
6. 地域づくり

換の実施や、開催された催しへの参加も行った。

- ・地域防災個別避難計画作成の支援の実施、1地域での自助マップづくりの実施や策定会議への参加により地域資源の情報収集と地域の実情が把握でき、住民との共有が図れた。

③今後の課題

1. 地域の幾つかある分譲マンションの住民も高齢化してきており、安否確認や救急搬送後の緊急連絡先などの問い合わせの相談ケースも増えている。賃貸であれば管理会社との連携を図ることで保証人を通しての本人確認の対応も可能であるが、分譲マンションではそのようにはいかず、対応に苦慮する。マンション内での住民同士のつながり・集いの場づくり・マンション内の支え合いの仕組みづくりを支援していくとともに、他地域での住民同士の助け合いやボランティア活動といった地域で支え合える関係の構築を支援していく。
2. コロナ禍で、活動自粛を余儀なくされる中、地域のキーマンとなる方との関係構築に努めたことで、啓発活動の講話依頼も増えている。引き続き、さまざまな啓発活動を通じ、住民の健やかな生活を支えることができるよう、住民・他機関と協働し取り組んでいく。

(文責：管理者 小松 めぐみ)

老人保健施設あうん高知

概要

①概要

施設長：細木 秀美

副施設長：小松 雅理

②事業内容

前年度に着工した増床工事が完了し、令和3年4月より入所は75床での運営がスタートした。介護報酬改定に伴い、各種加算算定や職員体制の見直しと充実を図り、科学的介護情報システム（LIFE）への登録およびデータ提出に取り組んだ。部署内で職種ごとにデータ提出に係るリーダー役割を決め、取りこぼさないよう、要件の理解や入力方法、期限管理などについて話し合いを進めることができた。また、他老健の取り組みについてリモートで情報交換を行い、参考にしつつ当施設に合った方法を導くよう努めた。データ提出の期限管理は、入所・通所ともに医事課担当職員の協力もあり、順調に軌道に乗せることができた。

新型コロナウイルス対策は2年目に入り、リモート会議の環境も整い、その活用はますます拡大した。ご家族や居宅関係の事業所とも顔を合わせることができるようになり、各種研修会開催においても導入され、感染対策とコミュニケーション、自己研鑽の一助となった。職員の行動制限や面会制限、日々の感染対策なども継続していたが、令和4年1月からの第6波では、併設病院のクラスター発生、2月に入り当施設内でも入所者3名の陽性者が出て、対応に追われた。しかし、感染拡大せずに封じ込めができたことは自信に

施設長 細木 秀美



もなり、より具体的にBCPに落とし込むことができる貴重な経験となった。令和3年8月から12月まではベッド稼働が90%程度まで上昇したが、年明けからは新型コロナウイルス感染に係る入所制限が約2カ月継続したことで、入所者数は目標値を大きく下回った。通所については、なかなか利用率低下からの回復に時間を要したが、年度末ごろより回復基調となっており、次年度に向けてよいスタートを切りたい。

平成30年から2期4年間務めた、高知県介護老人保健施設協議会会長職と事務局が年度末で交代の準備に入った。

③次年度の課題

- ・地域交流活動が2年間制限されており、災害訓練などが行えていない。感染対策を行いつつ、少人数の参加であってもシミュレーション訓練を再開する。
- ・ベッド稼働率90%以上を維持する。
- ・LIFEフィードバックデータの利活用と利用者還元。

（文責：副施設長 小松 雅理）

あうん高知入所



1 概要

病棟形態：介護老人保健施設 長期入所、短期入所
 病床数：75床
 所属長名：フロアマネージャー 嶋崎 由季
 構成職員：看護師 4名
 准看護師 5名
 介護福祉士 21名
 看護助手 5名
 介護助手 2名
 介護支援専門員 2名
 支援相談員 3名
 理学療法士 3名
 作業療法士 2名
 言語聴覚士 1名
 合計人数 48名

2 2021年度 目的・目標

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. 老健に期待される役割発揮のために、チーム力とサービスの質を向上させる
3. 介護報酬改定内容を理解して改定する

3 目標に対する取り組み

1. 令和3年4月に66床から75床に増床後、ベッド稼働率95%以上を目指して入退所調整した。感染対策のために入所後1週間の居室隔離を実施したが、個室がない当施設では多床室を1～2名で使用。そのため、数日間使用できないベッドが発生。また、自部署や併設病院でのコロナ発生に伴う入退所の停止や、入院、施設入所、看取りケア対象者の死亡退所などが集中した時期があり、平均ベッド稼働率は87.0%に留まった。
在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値：90）のポイントによって決まる老健の分類（基本型・加算型・強化型・超強化型・その他型）は在宅強化型の数値（58～68）を維持した。
2. 新型コロナウイルス感染症対策として面会制限や職員の行動制限を継続。常に「もし陽性者が出た

ら」と想定して居室や食堂環境の見直し、入浴日の調整、PPE着用指導などに取り組んだ。
 令和4年2月4日に利用者の新型コロナウイルス陽性が判明。4人部屋の3名が陽性となったが、医療機関への入院調整がつかず、約1カ月間にわたって施設内で陽性者3名と濃厚接触者1名の隔離対応、陽性者に対する治療薬の点滴を行った。この間、三愛病院や細木病院から陽性者の感染管理や対応方法について助言を受け、実践を通じて知識・技術を習得。その結果、他居室や別フロアへの感染拡大なく終息した。
 職員指導として、感染委員が手指消毒やPPE着脱手技確認、吐物処理方法の指導、リスク委員による環境ラウンドと改善、褥瘡委員によるポジショニング実施状況確認と指導、サービス向上委員による接遇チェックを実施した。

介護助手の業務拡大、CSセット導入により、看護職員・介護職員がより利用者ケアに集中できる体制づくりを進めた。

3. 令和3年度の報酬改定内容について老健協議会主催のWeb研修会などを活用して理解を深めた。BCPについては、有事におけるケアや業務の整理から着手した。このことは、部署内でコロナ陽性者の対応が必要になった際にも活かすことができた。
科学的介護情報システム（LIFE）導入により、褥瘡マネジメント加算、排せつ支援加算、科学的介護推進体制加算、リハビリテーションマネジメント計画書情報加算、栄養マネジメント強化加算を算定。

4 次年度の課題

1. ベッド稼働率95%（1日あたり71名）以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. チーム力とサービスの質を向上させる
3. 老健に期待される役割発揮に努める

（文責：フロアマネージャー 嶋崎 由季）

あうん高知 通所リハビリテーション デイケア・ファイト ←

1 概要

病棟形態：あうん高知 通所リハビリテーション
 定員：24名
 所属長名：三浦 恵子（介護主任）
 構成職員：看護師 2名
 介護福祉士 4名
 看護助手 3名
 看護助手・運転手 1名

理学療法士 2名
 言語聴覚士 1名
 合計人数 13名

2 2021(令和3)年度 目的・目標

1. 介護報酬改定後の算定・加算要件を正確に把握し、PC入力を行い算定することができる
2. 通所リハビリとして、医師やリハビリなどの多職

種間での意見を出し合い各利用者の状態に応じたリハビリを実施することで、機能向上と維持を目指す（平均利用者数 17名/日）

- 職種や経験年数などにとらわれず「利用者ファースト」を優先とし意見交換会を行い、業務内容やタイムスケジュールを変更する（利用者層やレベルなどに応じて臨機応変に行えるように周知していく）



③目標に対する取り組み

- リハビリマネジメント加算A（ロ）の算定に変更し、リハビリ会議の調整を行い算定に必要な要件（PC入力など）を満たすことができている。
・栄養アセスメント加算については栄養課の協力を得ながら、9割の利用者の算定を行うことができた。
- 新型コロナウイルスの流行に伴い、利用を自粛するケースが多かったが自粛中に大幅なADL低下することなく利用再開につなげることができている。
リハビリ会議を実施し医師と相談しながら機能向上と維持につなげることができている。
体調の変動に注意し、病状が悪化する前に情報提供を行い受診などにつなげ長期入院などを予防することができている。
目標の平均利用者数は達成できなかったが、三愛病院、居宅一宮、包括支援センターの協力もあり、お試し利用から新規利用につなげることができている。今後も他事業所へのPR活動を継続して行っていく。

- あうん高知入所の増床に伴い、通所スペース移動と定員を24名に変更する。

ホール内のレイアウトを変更し、車イス利用スペースと動線を確認し現段階では22名の座席を準備し、歩行器や車イスの利用者数が多いため、各日の利用者に合わせて座席を変動させている。
・新規利用者獲得のため、送迎を調整し早出業務を追加し対応している。

④次年度の課題

- 1日の利用予定者数を22名で調整し、平均利用者数17名を維持することができる
- 多職種間での意見を出し合い各利用者の状態に応じたリハビリを実施することで、機能向上と維持を目指す
- 中重度の利用者割合も多いため、体調の変動に注意し早期対応や受診を進め病状の悪化を予防することができる
- 利用者層に応じた座席やタイムスケジュールの変更を柔軟に行い、よりよいサービスの提供を行う

（文責：介護主任 三浦 恵子）

委員会

定例会	経営会議	全 体	褥瘡対策委員会	看護部内	看護師長会
	運営会議		栄養委員会		介護主任会
	医局会		診療情報管理委員会		看護部業務報告会
全 体	医療安全管理委員会		せんだん便りの会		看護部教育委員会
	安全衛生委員会		サービス向上検討委員会		看護部感染防止対策委員会
	リスクマネージャー委員会		未収金の会		看護部接遇委員会
	院内感染防止対策委員会		臨床検査適正化検討委員会		看護部褥瘡対策委員会
	医療ガス安全管理委員会		輸血療法委員会		看護部リスクマネージャー委員会
	防災委員会		入院相談・ベッド調整会		虐待防止・身体的拘束適正化委員会
	倫理と権利の検討委員会		院内教育委員会		エンゼルケア検討委員会
	薬事委員会		医療放射線安全管理委員会		

医療安全管理委員会

1 2021(令和3)年度 目的・目標

1. 定期的な院内巡回により現場のリスク状況を把握し、改善することで医療の質向上および患者・職員の安全を確保する。
2. 研修会の開催により、安全管理に関する基本方針や医療事故予防および再発防止方策の基礎知識を向上させ、安全文化の醸成を図る。
3. 医療事故発生時には、適切かつ迅速な対応を行い、被害を最小限にする。また、再発防止に向けた取り組みをする

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
 - 1) 委員会開催：毎月 第4火曜日
 - 2) 院内巡回：毎月 第1月曜日（フロアごとに実施し現場へフィードバックを行う）
 - 3) 医療安全管理マニュアルおよび、その他マニュアルの見直しと作成
 - 4) 研修会の開催
「電子カルテと処方オーダー関連インシデント」
令和3年12月16日・20日 参加者：（動画視聴含む）267名（参加率91.8%）
「医療安全管理指針について」
令和4年3月1日～21日 参加者：音声録音スライド視聴265名（参加率92.6%）
 - 5) 医療安全対策地域連携加算相互訪問評価
令和3年9月24日

2. 目標に対する達成状況

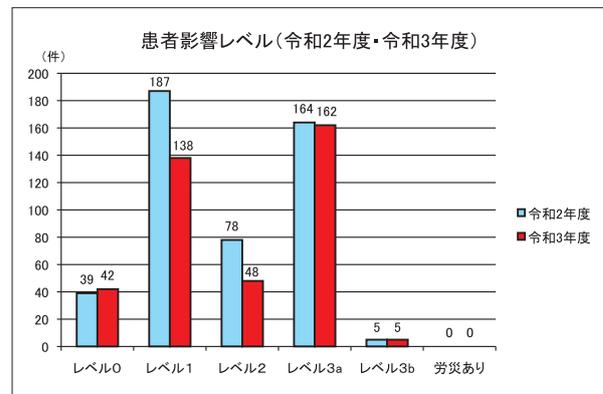
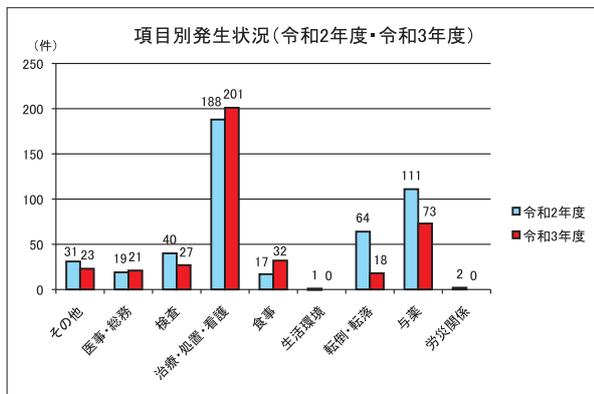
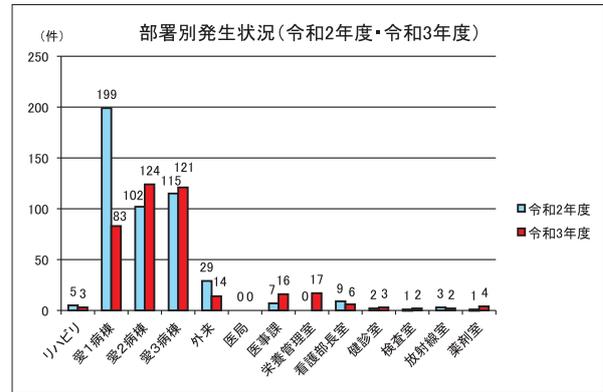
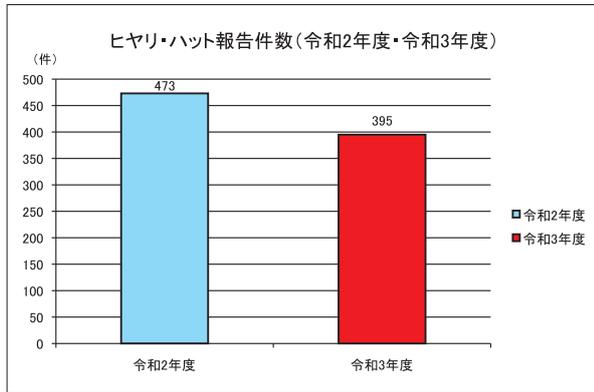
ヒヤリハット報告件数は、昨年度の473件から395件に減少した。要因はコロナ病床運用のため病院全体の患者数が減ったことが考えられる。コロナ病床運用病棟では、昨年度報告件数199件から83件に減少しており、全体報告件数の減少に関係していることが分かる。項目別発生数では、治療・処置・看護ケアに関する報告件数が昨年度の188件から201件に増加しており、全体報告件数の半数以上を占めている。特にスキンケアに関する報告件数が多くみられた。これは、当院では障害者病棟とI型介護医療院ともに高齢者で自立度が全介助レベルの患者層であることが要因となっている。アクシデント件数は5件と昨年度と同数であった。そのうち4件は骨折事案で1件はCVポート漏れの事案であった。今後も愛護的ケアや再発防止に向けて取り組みを継続していく。

医療安全対策地域連携では、6月に加算1・加算2施設交流会を開催し、各施設での取り組みについて情報共有が行えた。9月には厚生労働省作成の医療安全地域連携シートを使用し自己評価を行い、加算1施設からの訪問評価を実施できた。医療安全院内巡回は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、昨年度週1回実施していたのを月1回とし、医療安全に関するカンファレンス議事録での書面開催に変更した。

研修会についても、新型コロナウイルス感染防止対策のため、集合研修が開催できず、参加率向上

の手段として、動画視聴や音声録音スライドの視聴を取り入れて職員が参加しやすい調整が行えた。今後もコロナ禍の状況を踏まえた研修会の計

画を行い、病院全体の医療安全意識向上を目指していく。



(文責：医療安全管理者 中平 好昭)

院内感染防止対策委員会

1 2021(令和3)年度 目的・目標

- 院内感染の発生予防と感染症の拡大防止を図る。
- ICT活動を通して、感染防止対策を全職員で取り組む体制をつくる。

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 委員会の開催（ICC：院内感染対策委員会、ICT：感染対策チーム）
- 研修会の開催
 - 4月 感染対策指針
 - 9月 新型コロナウイルス感染症 軽傷・中等症の診かた
 - 9月 新型コロナウイルス感染症 クラスター発生からの学び
 - 12月 感染防止について 標準予防策、経路別予防策
- 手指衛生の遵守率向上のための取組み
- 感染報告(毎月) 指定抗菌剤使用届け報告(毎月) 週間細菌検査検出状況(週報)
- ICT活動(手順書作成、院内環境ラウンド)

- 職業感染予防対策(新型コロナウイルス・インフルエンザ・B型肝炎ワクチン接種)
- 新型コロナウイルス感染症対応

研修会では3密を避ける対策として、ZOOMの録画機能を使って録画した研修動画を公開し、各部署内や個人で視聴していただくという形で開催をした。視聴方法は各部署の担当者にゆだねられているため、職員の周知の度合いが分かりづらいが、いつでも見れるというメリットは大きく、今後も集合と録画視聴の双方の実施で開催していく。

院内感染対策では、モニター菌の検出数を前年度と比較すると、ESBL感染症は半減しその他院内感染の流行も見られなかった。また、職員の流行性感染症の報告もなかった。これは、新型コロナウイルス感染症の流行により、手指衛生やPPE着脱に対する意識が向上したことから、対策がしっかりとできていたためと思われる。

③新型コロナウイルス感染症対応

3年目の流行となった新型コロナウイルス感染症は、病院の運営にも大きく影響をもたらしている。受付前でのトリージや内科・小児科での有熱者に対する発熱外来、抗原検査・拡散増幅法検査の実施など、日々対応に追われた。

院内では、新型コロナウイルス感染対応として、入院時のトリージやPCR検査の実施、また、患者発生時のシミュレーションやPPE着脱訓練、ゾーニングの取り決めなど、部署ごとに訓練を行った。しかし、さまざまな対策をしていたにもかかわらず、

令和3年6月と令和4年1月に院内クラスターが発生したが、発生直後から細木病院院内感染対策室に協力いただき、感染拡大防止に努め終息することができた。

職員の行動制限とともに、入院患者さんの面会制限は1年を通して行われ、患者さんや家族の方にご不便をおかけしているが、長期的な対応を考え今後の取り組みを考えていきたい。

(文責：幹事 濱名 郁里)

褥瘡対策委員会

①2021(令和3)年度 目的・目標

- 褥瘡回診・定例会の実施
DESIGN-Rを用いた評価・および検討を行い、褥瘡発生率1%以内・治癒率75%以上にする
- 予防活動

②活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
 - 褥瘡回診 1回/月(第4火曜日)
 - 委員会開催 褥瘡回診翌日
 - 研修会・勉強会開催
令和3年12月「直線偏光近赤外線治療器の紹介」
令和4年2月「褥瘡・スキンテアについて DESIGN-Rについて」看護部勉強会
録画ビデオを視聴
- 目標に対する達成状況
褥瘡の院内発生者は16名、発生率0.7%。昨年は0.8%であり大きな変化はなく、年間目標の1%以内はクリアできている。発生部位は、仙骨部4件、

左右大転子部2件、左右腸骨3件、腰・背部4件、踵部2件、外果部1件、尾骨部2件、臀部2件、坐骨1件、左肩1件、左足第5趾1件、左右指間4件(同一人で、別部位に発生したケースあり)。

持込み褥瘡は11件。昨年と同数であった。褥瘡部位は、仙骨・腰背部・尾骨部・臀部・大転子部・腸骨部・踵部・下腿部・手指・足趾間であった。ポケット形成されていたケースもあったが、8日～最長60日とケースによって治癒期間までに幅はあるが、コメディカルとも連携し、除圧と日々のケアで治癒につなげている。治癒率は55.5%と、昨年より大幅に低下しているが、年度末の持ち込みのケースが治癒していないことが関係している。MDRPUは9件。昨年度は26件であったため、大きく減少している。職員の意識も高まってきていることの表れなのか、継続して評価していく必要がある。

昨年同様バルンカテーテルによるものが一番多いが、次いで胃管、点滴ライン、枕、ASVマスクがあげられる。MDRPUについては、予防策がとれているのかどうかを各部署で継続して確認していく。

■ 2021(令和3)年度 実績

注) 前年度からの持ち越し2名。

	令和3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	3月	総計	
リスク患者数(名)	182	178	186	170	189	200	158	162	174	209	175	177	2,160	
褥瘡保有者数(名)	7	8	6	6	6	4	4	2	1	3	2	3	52	
発生者数	総数	3	1	0	2	2	2	0	0	1	3	1	1	16
	率	1.6%	0.5%	0.0%	1.1%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.5%	1.4%	0.5%	0.5%	0.7%
治癒者	総数	2	1	2	2	5	2	3	1	1	0	1	1	21
	率	28.5%	12.5%	33.3% (6月1名 死亡退所)	33.3%	83.3%	50.0%	75.0%	50.0%	100.0% (12月1名 死亡退院)	100.0%	50.0% (2月2名 死亡退院)	50.0% (3月1名 死亡退院)	55.5%

発生者数	総数	1	2	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	9
	率	1	3	0	1(死亡)	0	2	0	1	2	0	0	0	11
	持ち込み	0.23%	0.70%	0.00%	0.00%	0.19%	0.12%	0.20%	0.35%	0%	0%	0%	0%	0.14%

- ・褥瘡でカウントしていた患者が血管性潰瘍に病名変更した場合は、発生時にさかのぼり発生者数・保有者数から除外する
- ・治癒者：月率＝その月の保有者数に対する治癒率 年率＝その年度の発生者・持ち込み者数に対する治癒率

安全衛生委員会



①令和3年度 目的・目標

1. 労働者健康の保持増進
2. 労災事故の防止、職場環境の改善
3. ストレスチェックの実施
4. ハラスメント研修会の実施

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 毎月1回の委員会の開催と院内巡視
 - ・ 月1回の巡視で前回巡視時指摘のあった4箇所の事項について確認した所、2箇所については、改善されておらず次年度以降巡視の際改めてその旨を伝える事にした。
2. ●労災事故
 - ・ 令和2年度 16件
業務災害：15件 通勤災害：1件
 - ・ 令和3年度 6件
業務災害：6件 通勤災害：なし

労災事故発生件数は、前年と比較し半数近くに減少し通年の件数となった。

職員の誰しもが新型コロナウイルスに罹患する可能性があり、マンパワー不足に陥る可能性がある。

そのため、日頃の体調管理はもちろんのこと、業務を行っていく上でも部署内で連携を取り業務災害による長期休業にならないよう一人ひとりが高い意識を持って業務に取り組んでいけた結果であると思われる。

●超過勤務削減についての取り組み

昨年度に引き続き、超過勤務時間の多い部署に対し委員会より所属長に改善する

ように声掛けをし、聞き取り調査なども実施し現状の把握を行った。

昨年度の部署合計超過勤務時間が、2,593時間であったが本年度の部署合計超過勤務時間が2,192時間にまで減少し、対前年比18.3%削減に至った。

所属長を中心とし業務の効率化、職員一人ひと

りの努力などがこのような結果をもたらしたものと思われる。

また、ほとんどの職員が仁生会有給または有給休暇を1カ月に少なくとも1日は取得できており、職場環境の改善が進んでいると思われる。

上記以外の別部署の超過勤務時間が増加している事が委員会で課題として挙がり、本年度6月より委員会での話し合い、所属長への聞き取りを行っていった。

こちらの部署に関しては、現行目立って成果はでていないが、次年度以降も委員会と部署の連携を密に行い改善に向けて進めていきたいと考えている。

3. ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を目的とし実施。

委託先の細木病院こころのセンターより送られてきた、組織診断報告書・部署ごとの組織別ストレス状況を各部署長に配布。

- ・ 調査対象者 261名
- ・ 受検者数：252名（受検率：96.6%）

4. ハラスメント研修会について

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し開催を見送ったが、緊急事態宣言が解除され、感染者数が減少した12月にVOD研修を行った。

誰しもハラスメントの加害者・被害者になり得る可能性があることを認識できる機会になり得たと思われる。

对患者さんに対してより良い医療が提供できるように、精神的に不安なことは少しでも取り除き全職員が心から笑顔で患者さんに接することができるような職場環境にしていきたい。

(文責：委員長 植田 宏平)

防災委員会



当委員会は防災管理業務の適正な運営を図ることを目的とし、防災管理体制の整備、教育、訓練を行ってきた。本年度の主な取り組みについては以下に記します。

①2021（令和3）年度 目的・目標

1. 消防訓練、風水害訓練の実施
2. 大規模災害訓練が行えるようBCPの修正をする。

②活動内容・目標に対する達成状況

本年度は新型コロナウイルスのまん延により、消防訓練の延期や会議の書面化などにより思うように活動ができなかった。

1. 消防訓練を6月・11月に行う予定だったが9月・

3月に延期して行った。

2. 会議の中止や書面会議により思うように進まなかった。

(文責：防災委員 鳴瀧 有人)

● サービス向上委員会

当委員会は、患者さまから寄せられる苦情のほか、種々の病院サービス向上のための意見・提言を聴取し、患者さまに質の高い医療サービスを提供すること。また職員からも職場環境、患者サービス改善案などを意図的に収集し、働きやすい職場づくりに貢献することを目的に発足しました。

サービス向上のための各種アンケートや調査を行い、集計および検討を行い、より良い医療サービスの提供を目指します。

令和3年度の主な取り組みは以下になります。

1. 令和3年度の主な取り組み
 - ①ご意見箱の回収、対応、回答
 - ②相談受付簿の検討、対応
 - ③職場環境の改善、患者サービスの改善
 - ④令和3年度退院アンケートの集計、報告
 - ⑤令和3年度外来待ち時間調査の実施、集計、報告
 - ⑥新型コロナウイルス感染症に対応したサービスの変更や中止の検討

(文責：事務部長 植田 宏平)

三愛病院 令和3年度 院内研究発表会

開催月：2022年3月

演題・内容	発表者○
1) 新人看護師1年目の学びと振り返り	愛1病棟 ○西森 香澄 ○武田 和芽
2) 面会制限時における患者と家族との関りについて	愛1病棟 ○岡崎 遥可 川崎 万梨華
3) 経費削減に向けて	総務課 ○森田 晃平
4) 看取りケアマニュアルの見直しを通して 気づいたこと	あうん高知入所 ○藤田 由佳
5) 医療消耗品請求方法の改善 ～カード式循環型物品請求を試みて～	外来 ○溝依 水貴
6) こよりアートを世界へ	D Sいろは ○大石 知佐
7) 『In Body』を使ったリハビリテーション	リハビリテーション課 松阪 篤 ○西森 溪二
総評、奨励賞贈呈	院長 中村 寿宏

第26回院内研究会は令和4年3月に感染対策のため、Zoomの録画機能を用いて発表記録とすることで視聴機会を持つこととなった。

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

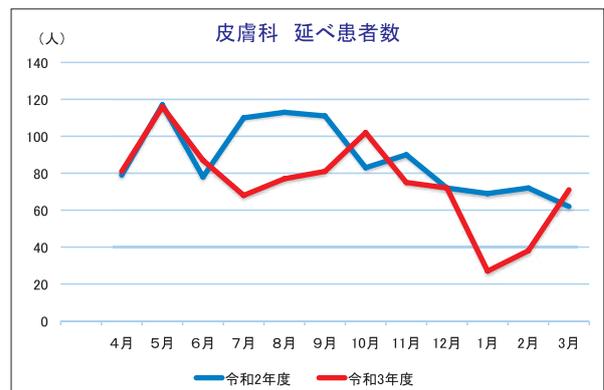
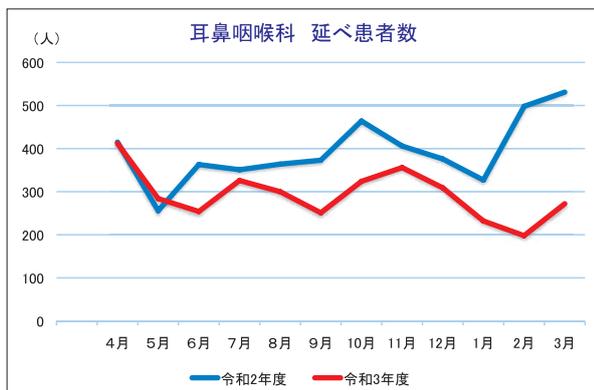
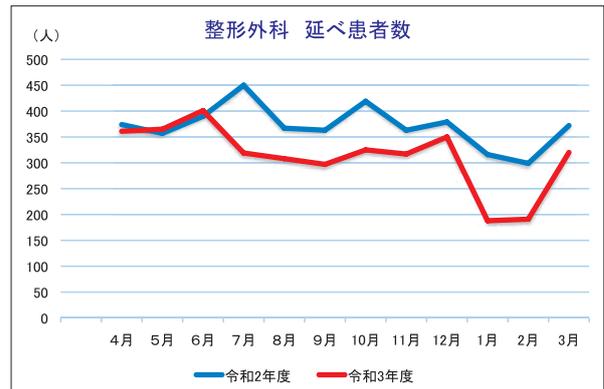
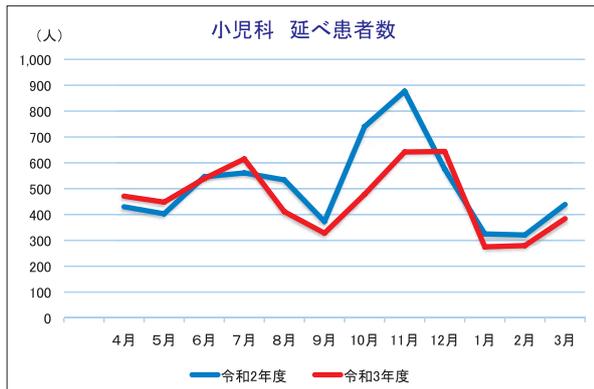
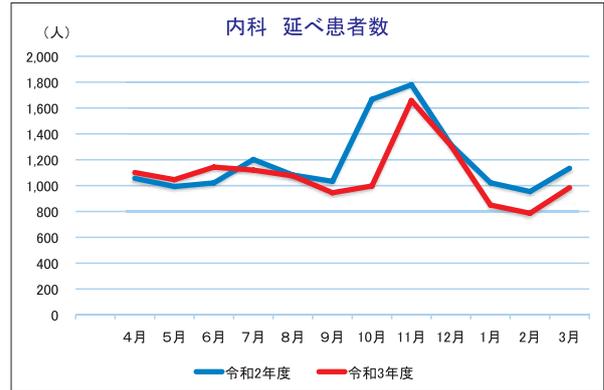
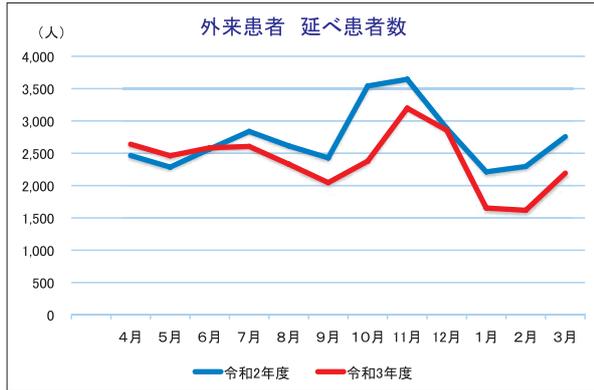
福寿園

積善会

診療部

■ 2021(令和3)年度 外来患者数統計

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数(人)	2,070	1,971	2,007	1,982	1,872	1,673	1,926	2,601	2,288	1,418	1,416	1,759	22,983
延べ患者数(人)	2,640	2,462	2,585	2,606	2,332	2,046	2,379	3,197	2,857	1,653	1,618	2,193	28,568
平均患者数(人)	105.6	107.0	99.4	104.2	93.3	85.3	91.5	133.2	109.9	71.9	73.5	84.3	96.6
新患者数(人)	71	78	70	75	79	57	61	87	73	30	47	76	804



細木病院

三愛病院
あうん高知

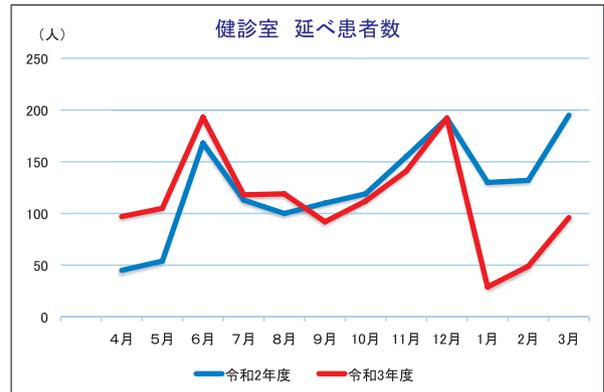
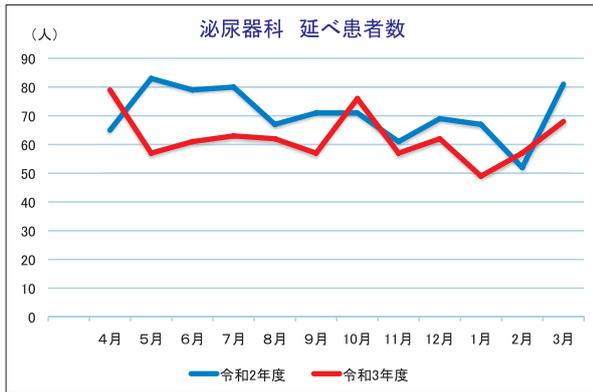
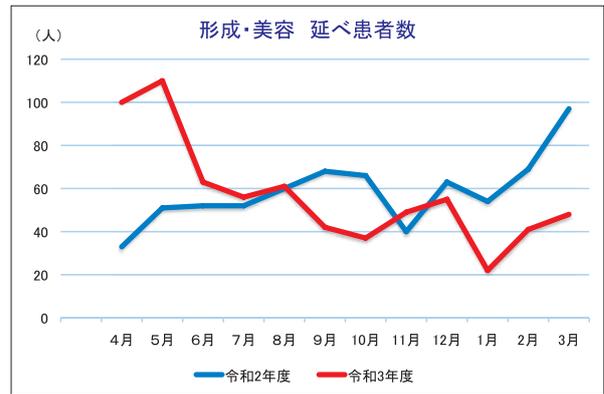
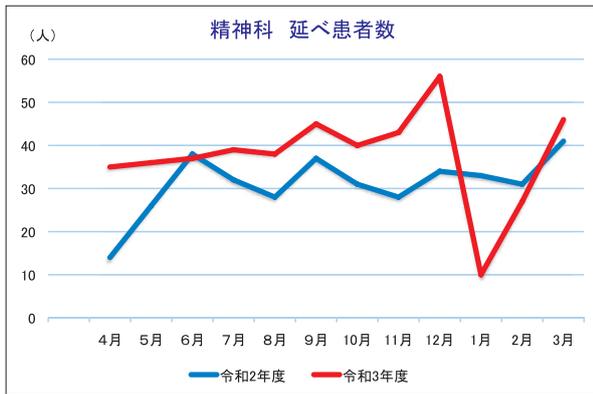
日高クリニック

本部

アドレス・高知

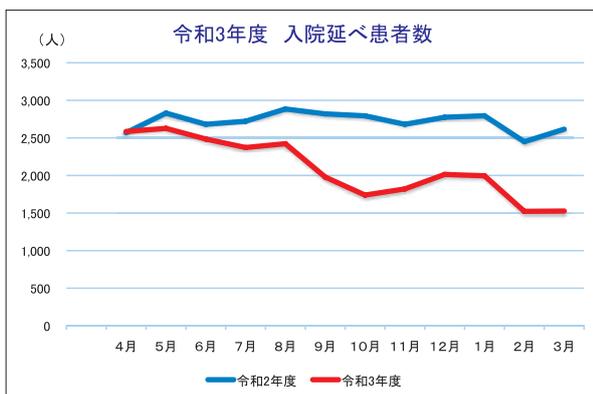
福寿園

積善会



■ 2021(令和3)年度 入院患者数統計

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	88.0	86.5	84.5	78.1	79.8	67.3	57.2	61.9	66.3	65.7	53.6	50.3	69.9
延べ患者数(人)	2,586	2,627	2,485	2,372	2,423	1,979	1,739	1,821	2,014	1,996	1,523	1,527	2,091
平均患者数(人)	86.2	84.7	82.8	76.5	78.2	66.0	56.1	60.7	65.0	64.4	52.5	49.3	68.5



看護部

2021(令和3)年度 病棟別業務実績

愛1病棟（障害者施設等）業務実績 ※令和3年9月より新型コロナウイルス感染症患者受け入れ重点医療機関となり、愛1病棟8床が確保病床となった

病棟形態	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (38床)	稼働率(%)	83.0	80.4	77.3	58.7	69.0	13.5	0.4	4.9	17.5	37.5	17.2	5.8	38.8
	延べ患者数(人)	1,319	1,321	1,229	965	1,133	215	7	78	288	616	264	95	628
	平均患者数(人)	44.0	42.6	41.0	31.1	36.5	7.2	0.2	2.6	9.3	19.9	9.1	3.1	20.5

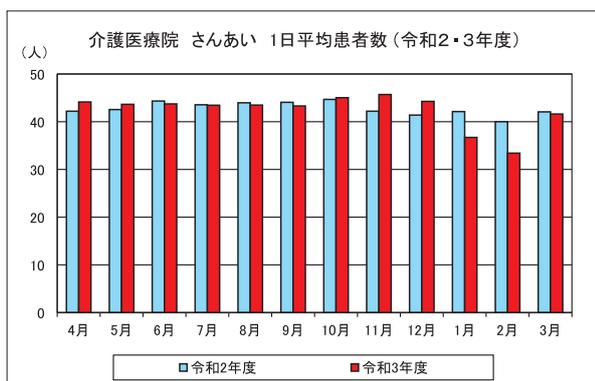
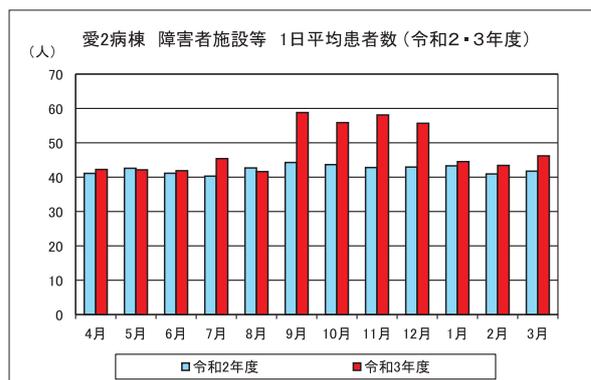
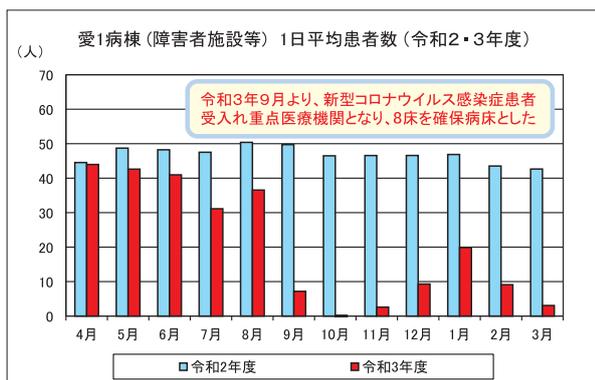
愛2病棟（障害者施設等）業務実績

病棟形態	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (45床) 地域包括ケア 病床(10床)	稼働率(%)	93.9	93.6	93.0	100.9	92.5	130.7	124.2	129.1	123.7	98.9	96.5	102.7	106.6
	延べ患者数(人)	1,267	1,306	1,256	1,407	1,290	1,764	1,732	1,743	1,726	1,380	1,259	1,432	1,464
	平均患者数(人)	42.2	42.1	41.9	45.4	41.6	58.8	55.9	58.1	55.7	44.5	43.4	46.2	48.0

介護療養院 さんあい（I型介護医療院）業務実績

病棟形態	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護療養院 さんあい (48床)	稼働率(%)	91.9	90.9	91.1	90.5	90.6	90.2	93.8	95.2	92.2	76.5	69.6	86.7	88.3
	延べ患者数(人)	1,324	1,353	1,312	1,347	1,348	1,299	1,396	1,371	1,372	1,138	969	1,290	1,293
	平均患者数(人)	44.13	43.65	43.73	43.45	43.48	43.30	45.03	45.70	44.26	36.71	33.41	41.61	42.4

病棟別1日平均患者数（前年度比）



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

医療技術部門

■ 2021（令和3）年度 薬剤室業務実績

薬剤室 処方箋・服薬指導・検薬件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来処方箋件数	15	30	21	22	30	26	20	20	24	8	1	7	224
外来処方箋件数(注射)	284	312	320	343	278	280	280	243	285	148	155	255	3,183
入院処方箋件数	2,025	1,506	1,618	1,550	1,643	1,481	1,261	1,210	1,553	1,017	1,165	1,190	17,219
入院処方箋件数(注射)	1,036	1,040	1,033	1,111	1,139	974	1,068	829	1,291	1,798	1,682	959	13,960
併設あうん高知 処方箋件数	381	309	292	388	347	330	361	343	382	344	309	321	4,107
併設あうん高知 処方箋件数(注射)	4	11	24	7	24	35	29	14	32	10	21	18	229
服薬指導件数	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	0	0	7
検薬件数(持参薬)	24	13	22	5	19	19	16	18	18	7	5	19	185
併設あうん高知 検薬件数	13	9	13	8	6	6	9	10	5	1	1	4	85

薬剤室 処方箋枚数

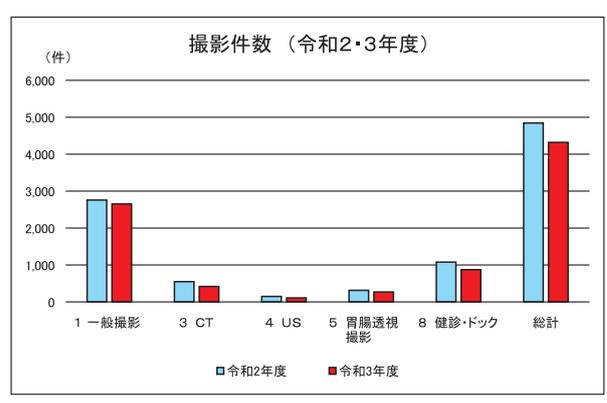
年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
令和2年度	161	2,106	6,344	6,584	1,288	71
令和3年度	158	1,976	5,771	7,369	1,440	176

薬剤室 処方件数

年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
令和2年度	170	3,437	20,884	12,732	4,157	88
令和3年度	224	3,183	17,219	13,960	4,107	229

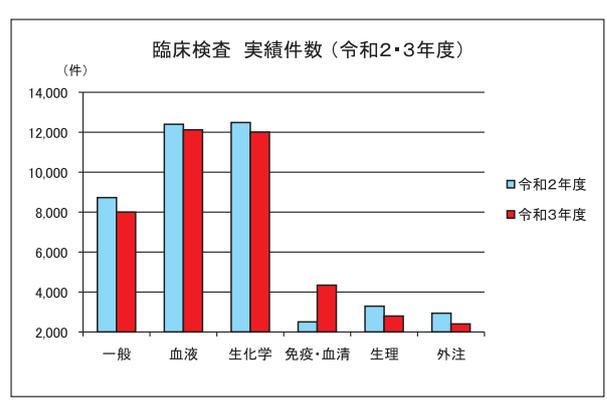
■ 放射線室 撮影件数

	令和2年度	令和3年度	前年度比
1 一般撮影	2,758	2,652	96%
3 CT	548	418	76%
4 US	148	108	73%
5 胃腸透視撮影	313	268	86%
8 健診・ドック	1,077	873	81%
総計	4,844	4,319	89%



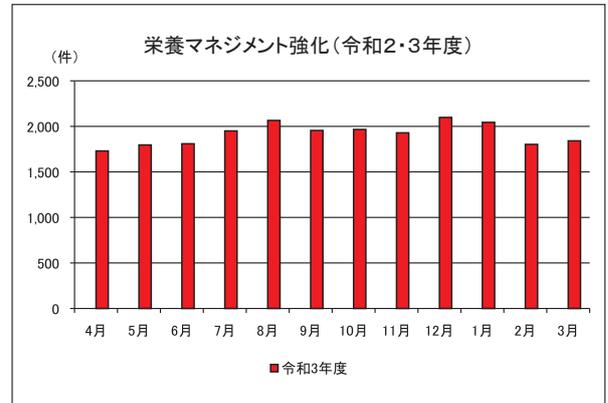
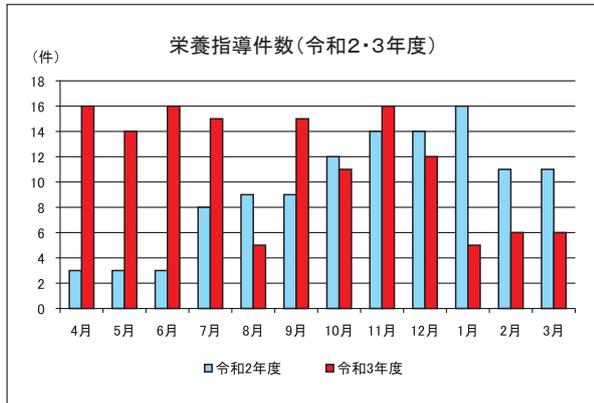
■ 臨床検査室 検査業務実績件数

	令和2年度	令和3年度	前年度比
一般	8,727	7,997	92%
血液	12,398	12,121	98%
生化学	12,486	12,004	96%
免疫・血清	2,505	4,343	173%
生理	3,291	2,798	85%
外注	2,939	2,403	82%



■ 栄養管理室 業務実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栄養指導	令和2年度	3	3	3	8	9	9	12	14	14	16	11	11
	令和3年度	16	14	16	15	5	15	11	16	12	5	6	6
栄養マネジメント強化	令和2年度												
	令和3年度	1,730	1,796	1,809	1,950	2,065	1,955	1,966	1,929	2,098	2,044	1,802	1,841



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

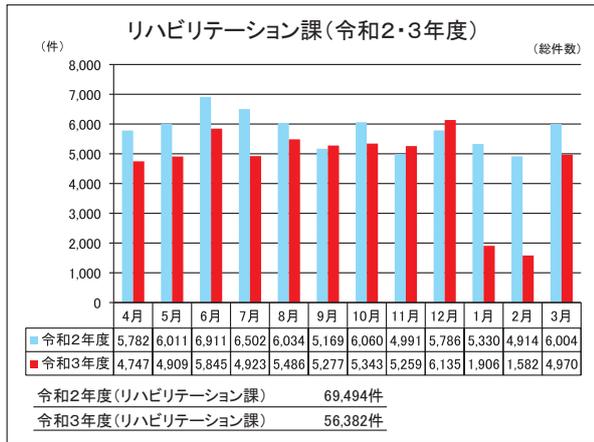
アドレス・高知

福寿園

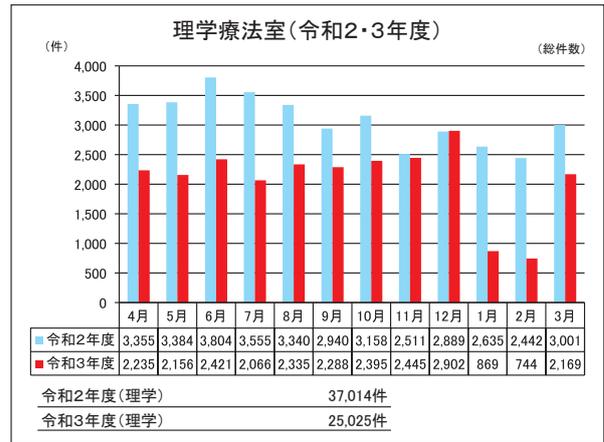
積善会

■ 2021(令和3)年度 リハビリテーション課 業務実績

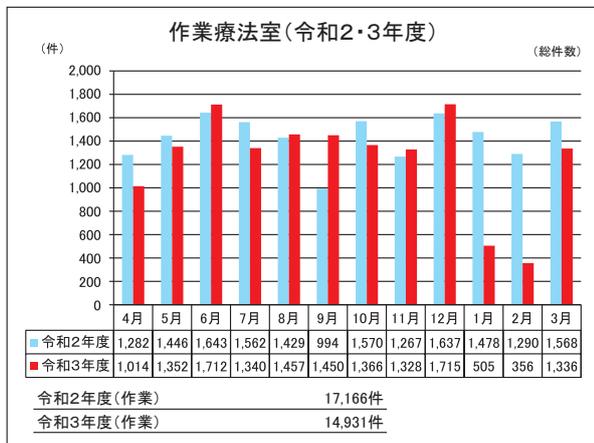
リハビリテーション課



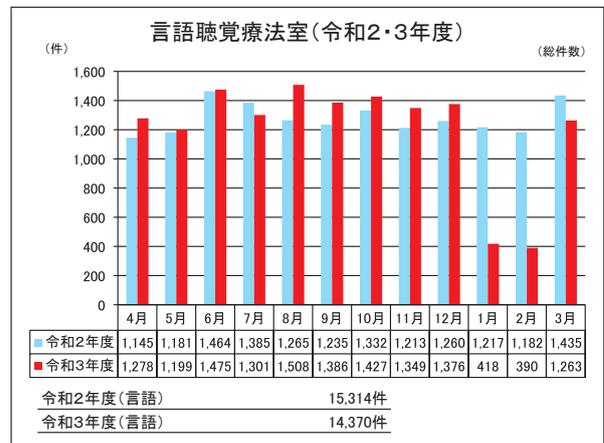
理学療法室



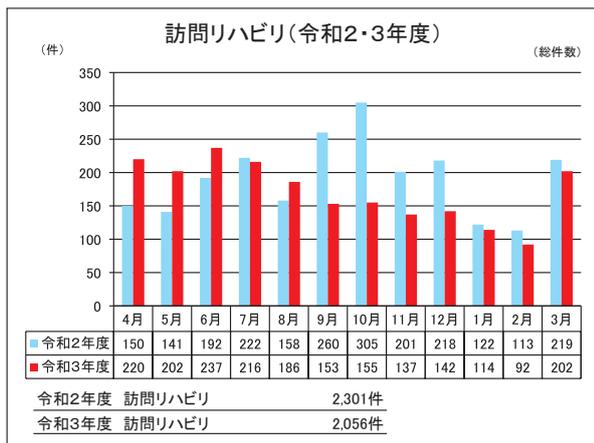
作業療法室



言語聴覚療法室



訪問リハビリテーション



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

在宅部門

■ 居宅介護支援事業所「一宮」 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和2年度 介護保険利用者数(人)	100	97	100	105	104	104	108	112	104	104	105	110	1,253	104
令和2年度 介護予防利用者数(人)	17	20	20	20	21	21	24	23	22	23	22	22	255	21
令和3年度 介護保険利用者数(人)	112	113	110	112	110	111	114	110	109	106	110	109	1,326	111
令和3年度 介護予防利用者数(人)	22	22	21	21	19	19	18	19	19	20	20	20	240	20

■ デイサービスいろは 業務実績

サービス種類：通所介護・総合事業

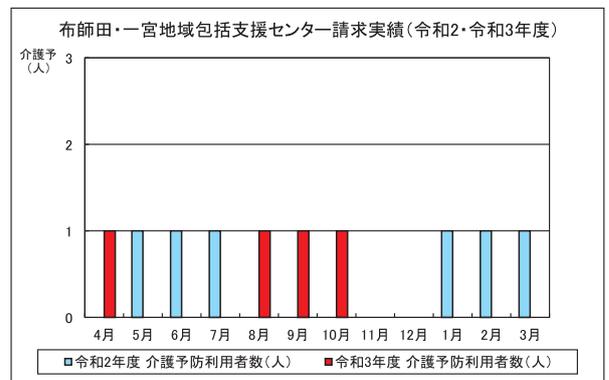
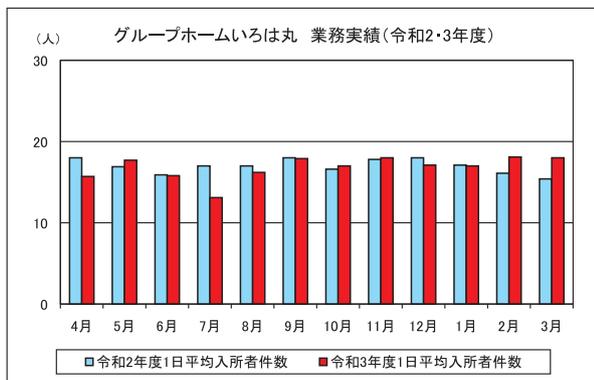
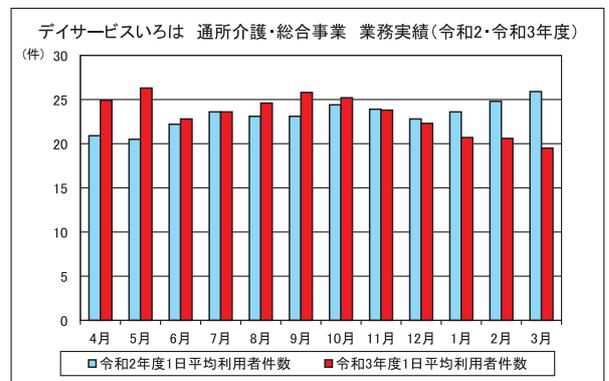
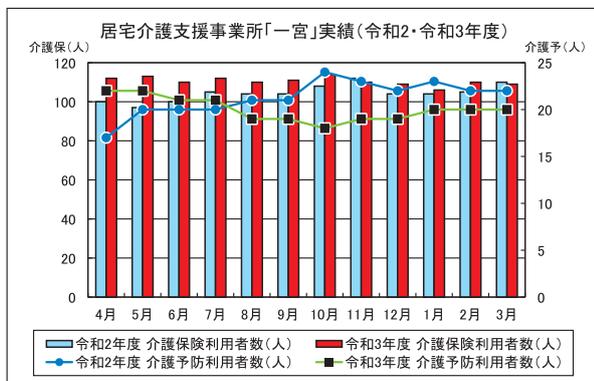
病棟形態	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所介護・総合事業	稼働率(%)	83.1	87.7	75.9	78.5	82.1	86.0	84.0	79.4	74.3	68.9	68.8	65.1	77.8
	延べ人数(人)	648	684	592	636	640	671	655	619	602	517	495	527	607.2
	1日平均利用者件数(件)	24.9	26.3	22.8	23.6	24.6	25.8	25.2	23.8	22.3	20.7	20.6	19.5	23.3

■ グループホームいろは丸 業務実績

令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	87.0	98.6	87.6	72.9	90.1	99.6	94.4	100.0	94.8	94.4	100.6	100.0	93.3
延べ入居者数(人)	470	550	473	407	503	538	527	540	529	527	507	558	511
1日平均入居者数(人)	15.7	17.7	15.8	13.1	16.2	17.9	17.0	18.0	17.1	17.0	18.1	18.0	16.8

■ 高知市布師田・一宮地域包括支援センター 請求実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和2年度 介護予防利用者数(人)	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	6	1
令和3年度 介護予防利用者数(人)	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4	0



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

老人保健施設あうん高知

■ あうん高知 業務実績

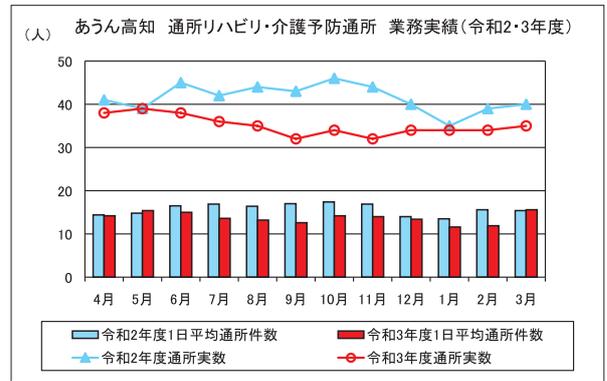
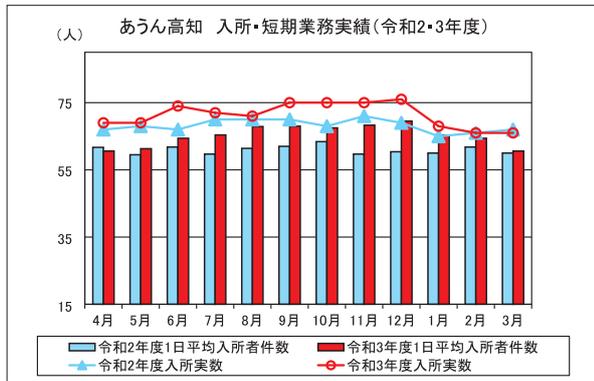
サービス種類：入所・短期

病棟形態	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所・短期	稼働率(%)	80.8	81.8	85.9	87.2	90.5	90.7	89.9	91.1	92.6	87.1	85.8	80.9	87.0
	延べ患者数(人)	1,817	1,901	1,932	2,028	2,105	2,041	2,091	2,049	2,153	2,025	1,802	1,880	1,985
	1日平均入所者件数(件)	60.6	61.3	64.4	65.4	67.9	68.0	67.5	68.3	69.5	65.3	64.4	60.6	65.3
	在宅復帰率(%)	75.9	69.6	68.2	62.5	57.7	53.9	59.3	53.6	58.6	65.4	68.2	61.9	

■ あうん高知 業務実績

サービス種類：通所リハビリ・介護予防通所

病棟形態	令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・介護予防通所	稼働率(%)	59.3	64.1	62.3	56.8	54.8	52.6	59.1	58.3	55.8	48.4	49.7	65.1	57.2
	延べ患者数(人)	370	400	389	368	342	328	369	364	348	279	286	422	355
	1日平均利用者件数(件)	14.2	15.4	15.0	13.6	13.2	12.6	14.2	14.0	13.4	11.6	11.9	15.6	13.7



■診療部

内科

□誌上発表(論文・著作・寄稿)

- 森下美智子：近況報告、岡山大学医学部内科学第三講座・同門会 同門会誌2021年、p.92、令和3年12月10日

□座長

- 中村寿宏：「教育講演1 循環器疾患と糖尿病 ～総論～」、細木病院 宮地剛、第43回高知糖尿病チーム医療研修会、Web型研修、2021年11月7日

■看護部

外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

□シンポジウム

- 酒井美枝：「当院における糖尿病入院患者への関わり」、第43回高知糖尿病チーム医療研修会(Web型研修)、高知市、2021年11月7日

□講演(講習会を含む)

- 片岡典代：「糖尿病をもっと知って明日も元気にしませんか?」、令和3年度職場の健康づくり応援研修会高知県須崎福祉保健所、須崎市、2021年7月14日
- 片岡典代：「大川村糖尿病教室」、高知県中央東福祉保健所、大川村、2021年11月4日

■医療技術部門

放射線室

□講義

- 廣田任成：「Eランニング講習会(900分)」、業務拡大に伴う講習会 日本放射線技師会、2021年7月～8月(3日間)

リハビリテーション課

□講演(講習会を含む)

- 山本潤：身近な物で簡単エクササイズ コロナに負けない体を作ろう!、紡、高知市、2021年4月15日
- 田島一樹：首・肩のコリを解消しよう!、紡、高知市、2021年4月28日
- 貞光梨沙：オーラルフレイルを予防しよう!、紡、高知市、2021年5月13日
- 松坂篤：知って改善! バランス能力!!、紡、高知市、2021年5月27日
- 武市美貴子：認知症とのおつきあい、紡、高知市、2021年6月10日
- 大原加有里：脳と体を同時に刺激!! デュアルタスク機能をアップしよう、紡、高知市、2021年6月24日
- 門脇貴代：お金をかけずに健康増進! 小さなことからコツコツと、紡、高知市、2021年7月21日
- 田島一樹：基礎から始めるころばん運動ストレッチ・筋トレ編、紡、高知市、2021年7月29日
- 田島一樹：基礎から始めるころばん運動ストレッチ・筋トレ編、紡、高知市、2021年8月12日
- 田島一樹：基礎から始めるころばん運動ストレッチ・筋トレ編、紡、高知市、2021年9月16日
- 濱田くるみ：中高年のおしっこの悩み 尿もれに悩む女性のために、紡、高知市、2021年9月30日
- 谷口桃子：今日からできる健口(康)トレーニング、紡、高知市、2021年10月14日
- 葛岡知佐子：いきいきシェイプアップ 代謝をあげて丈夫な身体づくり、紡、高知市、2021年10月28日
- 山本潤：身近な物で簡単エクササイズ コロナに負けない体を作ろう!、紡、高知市、2021年11月11日
- 森本愛：正しい姿勢で腰痛予防、紡、高知市、2021年11月25日
- 田島一樹：年末年始を健やかに!! 食べ方と運動で健康管理、紡、高知市、2021年12月9日
- 松坂篤：体験してみよう! ゴムバンドを使った運動、紡、高知市、2021年12月23日
- 竹倉佐和子：今年の干支、トラの小物を作ってみよう!、紡、高知市、2022年2月24日
- 大原加有里：脳と体を同時に刺激!! デュアルタスク機能をアップしよう、紡、高知市、2022年3月10日
- 濱田くるみ・谷口桃子：声を磨いて心イキイキ、紡、高知市、2022年3月24日

細木病院

依 頼 元 名	延べ人数
看 護 部 (愛1病棟)	
高知開成専門学校 看護学科 (1年生)	2
(愛2病棟)	
高知開成専門学校看護学科 (1年生)	2
合 計	4

三愛病院
あうん高知

在 宅 部 門 (デイサービスいろは)	
高知学園短期大学 看護学部	5
(高知市布師田・一宮地域包括支援センター)	
近森病院附属看護学校 (3年生)	2
龍馬看護ふくし専門学校 (3年生)	2
合 計	9
三愛病院総合計	
	13

日高クリニック

本
部

ア
ド
レ
ス
・
高
知

福
寿
園

積
善
会